

熊野獨參記

熊

野

獨

參

記

熊野獨參記 卷第一

◎紀州和歌山廣瀬新豐町ハ ムカシ藤六ト云地下人川ヲ 築出シテ町トナス

今繁昌ノ地也 故二俗ニ藤六町トモ築屋敷トモ云 町ハヅレニ一里塚有 爰ニ無德

庵自一里塚
少南左方ト云テ一向宗ノ小菴有リ 是ハ若山ノ湊長覺寺東門派ノ當
國末寺頭也ノ隱居末寺也

此所ヨリ東ヲ見ルニ岩橋山 鳴神村 秋月村 日前宮ノ社咸ミナ目前ニ有テ 鳴神村ニハ

鳴神大明神オハシマス 南海四座ノ大社所謂四社者日前宮國懸宮
鳴神大明神伊太祀曾大明神也ノ其一ニテオハシマ

何レノ世ヨリ誤リケン 妙幢菩薩ヲ社内ニ安置シ 世俗ニ夢ノ妙幢トハカリ云テ鳴

神大明神ハ何方ニ置給フヤ 覺知ル人稀ヤウニモ来テ 唯一ノ神道ハヲノズカラ廢

果テ習合トナレリ 伊太祈曾ノ神モ中比ヨリ誤テ近昔マテ兩部習合ナリシヲ國君ナ

○近昔 原本近曾トアリ 芝口曰ク山日ナラン山日ハ時トヨム也

ゲカシメ給イテ故フルキヲ温テ今唯一トナサシメタマフトヤ 日前宮ノ社内ニハ國懸宮

モヲハシマス 日前宮垂仁天皇十六年紀伊國名草郡秋月村ニ鎮座シタマフト云々

神職ヲ(ト)國造ト云 從五位下紀大膳太夫ト号ス 社領四十石モ寄付之 其以前ハ

宮郷十二郷
有之云ハ不殘國造ノ領地ナリトゾ 然ニ天正十三乙酉年前○関白秀吉公當國ニ御

乱入有之時國造ノ家人太田ノ城ニ楯籠ル御処口ニヨツテ領知城モ没ニ収之ニセリ

前君其来由ヲ被ニ聞召ニ社領御寄進有レ之 祭礼ハ恒例九月其日也 流鏑馬ヲ射畢テ

競馬有レ之國君ヨリモ例年馬ヲ被レ出サルナリ 御代參御使番
勤之也有之也

◎小宅村手平村
トモ云也 弓手ニ地藏寺ト云小菴有レ之 日夜念佛不レ怠淨土
宗也 此寺子寧コヤスノ地藏有

故二寺号トストカヤ 貴賤ノ婦人懷妊ノ時爰ニヲイテ帶ヲカケル時ハ出産安寧ナリト云 此寺ノ前ヲ直ニ行ハ御墓トイフ三昧ニ往也 此廣所ハ昔弘法大師ノ草創トカイヘリ 此所ノ小菴ヲ三昧院ト号ス也

◎杭瀬村 小宅ヨリ此村ノ門ニ井溝ニケ所有 橋ノ長三間半横一間餘也 坂田ノ橋長△

○門間か △原本 坂田橋ノ延長ヲ脱ス

此橋ヨリ二三町東ニ當テ坂田村有之 此所ハ前三浦長門守平爲春入道定環ノ知行所ニシテ 即親父正木左近邦通法名環齋ノ菩提寺有之 此寺ハ旧了法寺ト号シテ天台宗妻帶ナリシ 今ニヲイテ此村ノ土民等俗ナガラ法師ノ名ヲ付ル事此謂也ト思リ然ルニ那賀郡貴志ノ庄長山村ニ玄英寺ト号シテ 彼菩提寺ナルヲ近山○此所ニ引テ

ナラン

ル日正山玄英院了法寺ト号ス 法花宗ニシテ不受不施無本寺ナリシガ寛文年中不欠不施御改易ノ時再ひ改宗シテ天台宗トナセリ 此時ニ至テ和歌山天曜寺ノ末寺トナレリ千躰佛ノ堂並木像ノ涅槃堂有之 寺領ハ高三十石有之也 就中此寺北ノ方川添テ行ニ順礼觀音第三番ノ札所粉河寺ニ往道也 最彼所ハ名所也 風猛山ト云モ粉河寺ノ山ヲ云フトゾ 諸書ニハ加佐々木山ト書ク誤也ト云

玉葉集

見るたびに袖をぬらしてすくふ哉 おやの流れの粉川とおもへば 実 覚。
又此所ヲ紅葉ノ洞トモイフトカヤ 紀伊守藤原重經發心ノ時康平七年六月廿八日觀音ノシメシ玉フ歌

玉葉集

花衣かさらき山に色かへて もみちの洞の月をなかめよ

◎田尻村 大日堂有リ 村外ニ板橋十五間ニテ 強盜坂上下一町半有之 ムカシ海賊共此山ニカクレ居テ 熊野參詣ノ旅人ノ荷物ヲ侵奪タル故号共云フ 又安堵坂共イヘリ 是ハムカシ日前宮ノ神鏡毛見ノ浦ノ内琴ノ浦ニカヘラセ玉フヲ 土民共見

付奉リ 此所マテ守護来テ安堵セル故ニ名付クトイエリ 両説共ニ不是不非ナラン

カヲ年^(今)ハ熊ヶ崎ト改ル也 右ニ記ス小宅村ヨリ直ニ南ニ行ハ 中島村入口ニ子寧

ノ地藏有 是ニ於テ貴賤ノ妊婦帶ヲ借テ着帶スレバ安産スト云リ 村ノ中程右手ニ

観音寺^{浄土宗也}有^レ之 是ヨリ西ニ小雜賀村有 中島村ヨリ此間ハ イヅレモ塩濱也 小

雜賀村ノ半程船渡有^レ之 此川ノ向テ字津村トイフ 此所ニ淨心寺ト云テ日蓮宗有^レ

之 此上ノ南ニ續ヲ愛宕山ニテ 開基ハ不動院山伏五十六七年前 寛永年中草創也

愛宕山瑞雲寺円珠院ト号ス 寺領僅ニ有^レ之 脇坊ハ利生院 吉祥院 正光院トテ三

ヶ坊有^レ之 尔^(亦)此山ノ南ヘ續テ御坊山有 此間ニ少キ谷有^レ之 彌勒寺谷ト云テ古

ノ葬場ナリトイフ 今ニ残テ古墳多シ 此山ヲ御坊山ト号スルコトハ 天正年中比

石山合戦

六條ノ本願寺顯如上人父子 摂州大坂居城ヲツクル 其濫觴ヲ粗尋問ニ 中比一向

ノ由来
×遷化

宗ノ元祖親鸞上人ヨリ第八代蓮如上人 明應八年三月二十五日八十六 明應五年ノ秋ノ比ヨ

歳而延化也テ世号ニ廿五日一

リ 摂州東成郡生玉ノ庄内大坂村云所ニ 始テ坊舎ヲ一字取立給ヒ居住シ玉フ ソ

レヨリ実如^(證)性如 顯如上人マテ四代相續テ此所ニ居住シー宇繁昌セリ 柳營信長

公或時彼地ヲ見玉イ 西國押ノ爲一城ヲ此所ニ取置カント思召テ 顯如上人ヘ此地

ウシロダテ
背楯

ヲ索給ヒタルニ 竟ニ意ヲ拒ミ毛利輝元 並紀州根来雜賀ノ惡徒共ヲ皆楯トシ 三

好 細川ノ者共ヲ一味ニシテ 近國近境ノ一向宗ノ惡徒ヲ語イ 外構ニ柵 逆茂木ヲ

引テ敵対ノ色ヲ顯シ給フ 信長公大ニ憤怒マシク 両葉切断ニ斧柯ヲ用ルニ等

カルヘシハ思召ケレ共 其比江州淺井 越前ノ朝倉 中國ニハ毛利ノ一類 西國ニテ

ハ宇喜多八郎直家 四國ニ長曾我部元親 薩州ノ島津^{後号ニ龍伯一}等未^レ降 然レバ大事ノ前

ノ小事ニ拘ル事上策ニアラズト了簡マシク 先天王寺其外所^レ々ニ付城圍取敷テ

人衆ヲ入置守シメ給ヒケリ 元来要害堅固ノ地タル上 寄手ノ内ニ同宗信仰ノ者多

矢筈也

カリケレバ 大坂ニ向テ鉄砲ヲ打ニ玉ヲ取込 箭ヲ放ニ筈ヲハヅシテ弓ヲ射ル 又
ハ夜ニ兵糧ヲ持運寺内ニ入ケレバ 一揆勇悦テ少モ不屈 合戦年序ヲ經タリ 此時
寺中ニテ寄手ノ中ニ城ヲ射又乱幾人有ナト云 氣界ヲ後ニ誤リテ一向宗ヲ白犬宗ト

○乱妨人力 ○氣界ト氣留力 白犬宗ハ城射又宗也 ○○シロイヌ ×創キス？

モ云シト力ヤ 然ル所元龜元年頃午九月十四日 大坂ヨリ天満森ヘ射出ル信長公ノ
勢馳右川ヲ越春日井塘ニテ合戦スル 一番佐々内蔵助 後号ニ陸 鎗ヲ被テ引退 二番

前田又右衛門尉利家 後任ニ大 寛合右手ハ中野又兵衛弓ヲ射ル 弓手ハ湯淺基助能働

納言一

○乗
ノ
ットル
取

此時城中ニテモ 紀州海士郡木本村ノ住人木本左近太郎 下間ナトイフ者能働クヨ
シ 此節大坂ヲハ采取ベキ所ニ叡山ノ衆徒淺井朝倉ト一味シ 兩勢ハ既ニ坂本口マ
デ乱入スルノ由注進有ケレバ 大坂表ニハ人数ヲ残サレテ 信長公ハ早々御帰洛ア

リ 其後天正四年四月十四日荒木摂津守永岡兵部大輔 藤孝 後号ニ 惟任日向守光秀

幽齊一

原田備中守此四人ニ 上方勢ヲ指加ヘ大坂ヘ押詰ル 荒木ハ尼ヶ崎ヨリ海上ヲ働
大坂ノ北野田ノ郷ニハ附城ヲ構 並テ三ヶ所掛 川手ノ通路ヲ取切 惟任光秀 永
岡藤孝ハ大坂ノ東南守口 毛利河内守北口ヲ取付ル 原田備中守ハ天王寺ニ要害ヲ
夥敷揃ヘ 佐久間甚九郎惟任光秀トモニ天王寺ニ居城スル 此検使トシテ大津傳十
郎 猪子兵助ヲ被ニ指副 敵ハ樓ノ岸 木津兩所力ラメテ難波口ヨリ海上ノ通路ヲナ
ス爲 此ノ間ニ三寺ト云所有 寄手ヨリ是ヲ取ハ敵ノ通路一ノ廻ト評議シ 同年五
月ノ三日ノ曉ニ 先手三好笑岸齋 根来和泉勢ヲ三手ニシテ 原田備中守大和山城
ノ勢ヲ引率シ 彼三寺ヘ推寄シニ 敵モ樓ノ岸 木津兩所ヨリ撃出 数百挺ノ鉄炮
ヲ以テ双方ヨリ討立ニヨツテ 鬪敗軍シ原田備中守下知能スルト云共 敵多数故ニ
取籠原田備中守 塙喜三郎 蓑浦参右衛門討死ス 敵是ニ競テ夫ヨリ直ニ天王寺ニ押

寄ル 惟任光秀 佐久間甚九郎 猪子兵助 大津傳十郎其外江州勢防戰 信長公ハ京都ニ於テ此注進ヲ聞取テ 安土ノ普請衆ヘト相觸 五月五日ニ後攻トシテ京都御出馬也 御供僅二百騎計ニシテ若江ニ至テ着陣シ 俄ノ事ナレバ軍勢未ニ馳来ト云共此城五三日ノ間モ難狗^拒旨度々至テ注進ナレハ 味方一人モ攻殺テハ如何也トテ五月七日御馬ヲ寄セラレ 敵ハ一万五千計味方ハ三千ニハ過ズ 三段ニ隊ヲ討向ノ御魁一段ハ佐久間右衛門尉信盛 松永彈正久秀 長岡兵部大輔藤孝並若江ノ衆ナリ 二段ハ瀧川左近將監一益^{マス} 羽柴筑前秀吉 蜂谷兵庫頭頼隆 惟住五郎左衛門長秀 稻葉伊豫守^{後号ニ勝一鉄一} 氏家左京亮 安東平左衛門 池田勝三郎信輝^{後号ニ勝入軒一也} 三段ハ御旗本トモニ住吉ヨリ相對 信長公ハ魁ノ足輕ノ内ニ交リ下知シ玉フ 此時御脚ニ鉄炮玉ヲ負タマイケレトモ コトモシタマハズ 敵ヨリ数千挺ノ鉄炮ヲ放懸ト云共 大將采[○]幣[○]ヲ取テ^{カケ}崑玉^{カケ}ヘハ 諸勢一同押掛突崩シ一揆ハラヲ斬捨ニシテ 直ニ天王寺ニ崑入玉フ然レトモ逆徒多勢ナレバ 重テ天王寺ヲ取卷ク 信長公時分ヲ窺ヒ衡テ出 咸^{ミナ}追散シ 大坂城ノ戸口ニテ推詰メ 敵ヲ千百人余討取り 夫ヨリ又大坂ヲ四方十ヶ所ニ附城 又夫ニ被^ニ取付^ニ天王寺ニハ 佐久間父子 近藤山城守 池田弥二郎 山岡孫太郎 青地千代壽丸 永野監物 松永秀久 同久通等ヲ常番トシテ 住吉ノ濱手ニモ足掛ヲ拵 真鍋主馬兵衛 沼野傳内等ヲ海上ノ警固トシ玉ヒテ 六月五日御帰陣有 同年七月十六日中國ヨリ能島 来島 児玉内蔵大夫 栗屋四郎大夫 浦野兵部等七八百艘ノ兵船ニ取乗テ 大坂ヘ兵糧ヲ入レントスル 是ヲ見テ真鍋主馬兵衛 沼野傳内 沼野伊賀 沼野大隅 宮崎鎌太夫 同鹿目助並尼崎ノ小畑 花隈ノ野口此等三百余艘ノ船ヲ以テ 木津川ノ川口ヘ乗出防戦ス 然所ニ大坂ノ一揆[○]楼[○]ノ岸 木津穢多坂ヨリ討出テ 住吉濱手ハ城ヘ足輕ヲ掛ケ 是ヲ見テ天王寺ヨリ佐久間信盛 人数ヲ出シ[○]崑[○]合少時戦タリ 海上ニテハ敵方ヨリ船中ヘ 砲禄火ヲ数多ナゲ入攻崑 又敵カスヲ

カノ城主村上八郎左衛門下知シテ 海賊トモヲ数多海中ヲ潜ラセ 闖^ノ當船ノ底ヲ切破ラレケレハ 或ハ船ヲ乗沈メ被^ニ焼破^一テ 死傷スル者員^{カス}ヲ知ラズ 真鍋主馬兵衛沼野傳内沼野伊賀野口小畑宮崎鎌太夫同鹿目助此外悉ニ討死スル 敵ハ大利ヲ得テ 兵糧咸城中ニ運入テ中國ニ帰帆シケレリ 此旨信長公聞召 急ニ御發向有ヘキ所ニ 敵ハヤ引取タリト注進ヲ告レハ 住吉濱手ノ城ニハ保田久内碓井因幡伊知地今太夫宮崎次郎七等ヲ常番トシテ入ヲカレタリ 私曰此船戰事中國勢威兵糧城中へ取入帰帆之時之戰也ト号ス

其後天正八年近衛左大臣龍山ヲ以テ敕諚有 本門跡者尺寸ノ寺領ヲ爭ニアラズ 一里四方ニ足又大坂ヲ惜テ 久敷籠城イタシ 天下ヲ苦シムル事謂^{イヘ}ナシ 何方ヘモ退普佛法ヲ可^レ弘ト云々 上人敕答ニ曰ク 叡慮ノコトク諸派ニサヘ妨於^レ無^レ之 邊地遠國ヘナリ共退出可^レ仕旨言上ヲナス 依^レ之信長公敕問アリ 信長公ハ敕諚ト云且ハ長袖ノ後ヲ憐ニ思マシ^ク 且ハ天下太平ノ功ヲ思召ニ依テ 大坂退出仕ルニライテハ 悉惡徒ノ命ヲ可^レ被^レ助 其上五畿内何^レノ所ナリトモ 如^レ望坊舍ヲ人々ニ建立^一勸化シテ 聊以不^レ可^レ有^レ妨 然トイエトモ向後見懲ノ為ナレバ 寺中張本ノ者不^レ殘頭ヲ可^レ刎トノ敕答也 故ニ龍山力サネテ大坂ニ下サレ 此旨申渡サルヘニ 是ニヨツテ顯如上人此度予ガ命ニ代者アラバ 七代決定往生ノ御礼ヲ可^レ賜ト 陣中ヲ觸ラレシニ吾死ニ人切ニト諍テ 是ヲ延テ出ル者凡百人ニ余リシトカヤ故ニ闖^ノ取ニシテ六十六人ハ首ヲ切テ出サレケリ 其後門主ハ息教如上人並家老等ト談合有^レ之 大坂相渡不^ニ退出^一奉 若^シ拔^シテニ公事致スニライテハ奉^レ願彌陀如来ノ背ニ御本願^一 殊ニハ釈迦三世ノ諸佛並天神地祇開山等ノ御罰ヲ蒙 今世ハ冥加ニ尽来世ハ阿鼻大城ニ墜在スベキ者也ト盟約ヲ書認 光佐判 光喜判其下ニ刑部卿按察使少進等マデ嚴重ニ血判ヲ加 敕使ニ被^レ渡和平相整処ニ 子息教如上人ハ傍若無人ノ溢者共ニスヘメラレ 誓盟違背ノ心出来ル 依テ父上人雖^レ有^ニ異見^一 曾テ用^ニ牛ス

コノ辺

意味不明

誓願寺
ナリ

〇併吞

(芝)

住ミ玉フニ 秀吉公天下早^〇吞^〇ノ時ニ至テ 洛陽本願寺ニ遷住シ給フ

ソモソモ

顯如力ナク右ハ後禁廷へ申上ラル 當宗第一尊崇シ奉ル御真影ヲハ密ニ大坂ヲ守出シ 女輿ニ乘雜賀孫市 根来小三 ツチヤ源ノ太夫等一騎當千ノ者共 五千計前後ヲ守護シ 朝マダキニ堺口ノ門ヲ出 木津ヨリ船ニ乘順風帆揚タルハ 其日ノ暮程紀州鷺ノ森ノ御坊へ入申ス 其後顯如上人ハ天正八年四月四日大坂退出有之 同月十日鷺ノ森ニ入玉ヒケリ 教如上人ハ大坂ニ殘留リ合戦セリト云トモ 鼻熊勝曼ノ出城トモ咸責崩サレ センカタナク再和平ヲ乞給ヒ 信長公聞召早速ユルシ出シ 親子一處ニナスベキ所ヲ焼打ニセル 人数ヲ取損シテ可^レ安ト了簡マシ^〱 則肯給フ 教如ハ忝ト同年八月二日大坂ヲ退出シテ 紀州和歌山今ノ御坊山ニ入タマフ カサネテ教如上人國々ノ一向宗へ觸マハシ 再叛逆ヲ企給フ由 有^ニ其間^一信長卿旧惡ヲ憎ミ思召折節 幸四國征伐ノ大將トシテ 三七郎信孝和泉ノ堺ノ津ニ在陣セラレシヲ マヅ紀州ノ門徒ヲ可^ニ討平^一ト御下知有 天正十年六月三日信孝三千ノ人数ヲ率ヒ 泉州濱手ト紀州山口越トニ打ムカイ給フ 然所ニ信長公明智ノ爲ニ 昨日京都本能寺ニ於テ生害ノ由 告来ニ依テ早々紀州表ヲ引取タリ 教如ハ上方勢推寄ト聞テ 先テ御坊山ヲ出 濃州岐阜ノ内へ落テ 船橋ノ誓願ハ計竟トシテ 郡上ノ奥飛驒ノ堺ニ 八代八右衛門ト云テ一向宗ノ者有 此家ノ内ニ新宅ヲシツラヒ 教如ヲ入置タリ 然ルニ信長公御父子生害ノ聞有ケレバ 再紀州へ立歸リ 父上人ノ勘當ノ佗言有ケレバ 則三ヶ條ノ誓紙ヲ書出玉イテ 勘當ヲユルシ給フ ソノ後顯如上人ハ天正十二年八月中旬 紀州ヲ出テ泉州貝塚ニ住玉フ 同十四年摂州天満ニ

抑々紀州鷺ノ森御坊ト申ハ旧名草郡志水村ニアリ 此村ニ喜六太夫ト云ル土民有

或時蓮如上人熊野参詣セラレシニ此処ニヤドリ玉フ 喜六太夫ハ一向宗ノ奥義ヲ尋

問セシニ 上人渠ガ信仰ヲ奇特ニ思イ玉ヒテ 祖師親鸞ノ御影ヲ畫テ與^レ之玉ヒケ

リ 喜六力曰 トテモノ事ニ貴僧ノ御影ヲモ顯シ玉ヘカシト望ミケレバ 即一紙ニ

畫レ之與ル 其後此所ニ一字ヲ建立ス 喜六太夫ハ臨終正念ニシテ 往生ノ素懷ヲ
遂ゲ遺言ニ依テ 彼御影ヲ御坊ノ什物トナセリ 其ノ後此御坊ヲ鷺ノ森ヘ引シト也
今ニ於テ每歲三月二十五日彼御影ヲニ双佛ト号シテ 同二十八日マデ四日ノ間開帳
シ 諸人ニ拜見サス也 御坊敷地二町
四方國君下給 然ニ顯如上人ニ三人ノ男子アリ 惣領教如上人ハ

武道ヲ專トシテ軍法ヲ鍛鍊シ 乘馬ハカリ百八疋養玉ヒケル 依レ之父上人ノ心ニ
協給ハズ 次男ハ興正寺ニ入院シテ本願寺脇門跡ト敕許ヲ蒙リ 口宜ヲ賜リ奥門跡
大僧正顯學上人ト号也 三男ハ阿茶九兒[○]光照ト申 是則顯如上人ノ後住也 顯如上

人ハ文祿元年辰ノ霜月廿四日ニ遷化セラル 依レ之三男准如上人光照ヘ本願寺八町
四方ヲ讓玉フ 是ヨリ連枝ノ中和トナル 教如上人ヲハ父上任世ノ時ヨリ寺中東
ノ方ニ小菴ヲシツラヒテ入置給ヒタリ 秀吉公熟ニ御思案有 若此宗旨一再揆ヲ発
スニ於テハ最天下ノ騷動ナルヘシ サレバトテ科無シテ宗旨ヲ潰サン事モ三宝佛陀
明鑑ニ背キ 又武勇ノ不足ニ似タリ 所詮謀ヲ以テ諍ハシメ 内ヲ今ニ不^レ如ト賢

本願寺

東西分立自^レ 是東西ノ本願寺ト別テルトモ聞ヘシ

教如上人 カタシケナ 辱キ事ニ思ヒ

方々ノ御陣

○掌

ノ供奉一度モカクル事ナク薩州マデ努給フ 其後東照神君天下御握奉ノ時ニ至テ
秀吉公ノ廣大微妙ノ智ヲ察セシメ給ヒケレバ 弥教如ヲ御崇敬有 慶長五年ノ夏野
州小山ヘ供奉セラル 夫ヨリ関ヶ原ノ役マデ彼ニ召列タルトソ聞エシ 其後教如上
人ヘ寺地四町四方ノ被^レ下ヘシト被^ニ仰出^一 此所奉行板倉四郎右衛門 加藤喜右衛門
松田勝右衛門等ノ所司代打渡所ニ 寺地不足ユエ西本願寺ノ地ヲ一町打入テ教如ヘ
遣ス 此旨及ニ台聞ニ加藤 松田御叱ヲ蒙リ 加藤ハ奥州岩城ヘ追下サル 松田ハ黄
金五百枚首代ニ可^レ出ト御下知ニテ家財咸没却シ其後身上果シト也 夫ヨリ板倉四

□ 後？
(芝)

郎右衛門 □号ニ伊賀守一也 教如ハ地不足ニヨッテ四町二三町被_レ下 上人忝サノアマリ 某ガ

末寺ト住ム者ニハ 嚴密ニ誓詞ヲ致サセ 國々ニ今置ホドナラバ 御當家ニ奉_レ封
後ニ末代ニ至テ 國主 郡主若反逆ノ時ハ時日ヲ不_レ移言上仕候様ニ可_ニ申付_一ト 潜
ニ言上ヲハ申ザレケリ 依_レ之益御崇敬アリシトカヤ 今ニ於テ御代替ノ節國々ヨ
リ東門派ノ末寺ヲ本願寺ニ召集ル事ハ 彼誓紙ヲ書サン爲ナリトゾ
亦淨心寺ノ門前ヲ北へ行ハ諸士ノ下屋敷有 夫ヨリ伊原町 此所ハムカシ伊原某此
時ヲ取立ト云ニ 故ニ神ニ祝テ伊原大明神ト号ス 此町ノ西ニ小社有_レ之

◎ 塩道村 新堀 吹上諸士ノ屋敷ニ行也

塩屋村ノ北往還ノ道筋ニ菊本橋

石橋也裏ニ有_レ銘李梅溪筆

此橋ノ西ニ見ユル在所ヲ葛輪里_{クスワノサト}ト云テ共ニ旧跡也 小雜賀村ニテハ素麵ヲ家業トス
然ニ此村ノ中ニ朝夕ノ用水ナシ ムカシ弘法大師ニ水ヲ惜ミタルユエナリトモイヒ
傳 向ノ宇須村ヨリ用水ヲ汲也 サレトモ近年ハ井ヲ掘テ今ハ一ツ有_レ之ト云 此
所ヨリ三葛村ニ行ニ 強盜_{ガンドウ}ノ鼻ノ渡船ニ乗也 中島村ヨリ三葛村エ行クニモ此渡ヲ
乗ナリ 但シ此渡ハ中島 三葛兩村ヨリノ渡ニテ 日ノウチハカリ有_レ之 干潮ニハ
歩タリナリ

◎ 三葛村 是ハ順道ヨリ西ノ山陰ニシテ 雁頭坂辺ヨリハ見エズ 此村ノ中左手ノ方

ニ装束ノ場ト云テ少ノ空地有_レ之 ムカシ日前宮ノ神鏡秋月村へ遷座ノ時 此ニテ
葛ヲ以テ装束シ奉ル由緒ニ依テ 三葛村トナツケシト土俗ノ説ナリ 然レトモ文字
ニ付テ聊カ不審アリ 若此節決定ナラズ 神葛ト可_レ書也ナホ尋ベシ ウエノ方ニ
妙見菩薩ノ社アリ 是當所ノ氏宮在所ノ中ホト 左ノ方ノ山ノ麓ニ正行寺 淨土宗也ト云

フ有_レ之 同少シ脇ニ福壽院

真言宗也

ト云有

同大日堂有_レ之

右寺ノ本尊ハ觀音ノ像作○

有之スベテ此辺入海ニシテ塩濱也

紀三井寺山ヲ左ニ見テ二王門前ヲ南ニ行 是熊野順道也 右手ハ遠淺小川有 紀三

井寺山ハ順礼第二ノ札所也 本尊ハ十一面觀音 脇立千手觀音也 亦左右二天照大

神春日ヲハシマスと云 秘佛ナルガ故ニ開帳スルコトナシ 然レドモ住持ハ^{号ニ本願}一也代々

不^レ日勿^レ 密ニ拜ストカヤ 當寺ノ開基ハ天平宝寺[○]コ口報恩法師ト云 願主ハ宝龜元

年ニ爲光上人^{後号ニ}建立也 大檀那ハ嵯峨天皇也 其後大同元年三再興有ト云 本坊

ハ紀三井寺山金剛宝寺護國院ト号ス 寺領二十一石五斗三升也 脇坊ハ普門院瀧

坊 誓海院 豐藏院 海龍院 海東院 法性院 宝積院 正住坊以上九ヶ坊也 外ニ觀音

ノ御供所ト云比丘尼有 イツレモ真言宗也 當山ノ中程西ノ方ニ大塔木^{或ハ横道}ト云

奇木有^レ之 四季共々落葉セズ大木也 或說ニ竜宮城ヨリ寄附ノ木也ト云リ 亦大

塔宮熊野ヘ落サセ給フ時 手自植サセ給フ木也ト云リ 然レハ大塔ノ木ト云ベキヲ

皇方物産惠ニ應同ノ樹ト畫ス たぶのき也 (芝) ● 是 (芝) x x 濃墨ナルベシ (芝)

俗ニ誤テおほどの木ト云リ 二王門此前ニ殺生禁斷ノ石有^{碑銘李梅} ○ヨリ本道へ上

ル道筋近頃石段トナレリ 先年ノ道ハ西ノ谷ヲ北エ向テアカリシ也 于^レ今古道有^レ

之 當山ノ内ニ楊柳水 吉祥水 清淨水ト云 三ツノ井有故ニ山号トスト云リ 右三

井共ニ上葺「瓦也」有之 天井ニ農墨^x繪龍狩野興南書^レ之 本當ハ南ニ向フ 靈佛

靈宝多シ 中ニ錫杖、鐘、法螺貝アリ 是等ハ龍宮ヨリ寄附スト云傳タリ 最靈器

也 然共貝ヲ何ノ時力盜賊ノ爲ニ失シト云リ 本堂ノ前左右ニハ石燈籠並ベリ 同

右ニ經堂有 又本堂ヨリ巽ノ方ニ山上ニ二重ノ塔アリ 本尊ハ大日 西ニ向フ良ノ

方二鳧谷^{ケリタニ}トイフ旧跡有 此上ヲバ名草山 名草浦 名草濱ト云名所也

後撰 恋二 讀人不知

跡みれば心なぐさの濱千鳥 いまは声こそ聞まほしけれ

拾遺愚草 定家

友千鳥名草の濱の浪風に 空さへまさるあり明の月

夫木抄 前大納言

白雲のちへの衣手立わかれ けふや名草の山路こゆらん

日前宮ノ祭礼ノ時ハ此山ヨリ榊ヲ切出スト也 今沙汰ナシ

風雅集 紀俊文

名草山とるや榊のつきもせず 神わさしけき日のくまの宮

山上二伊勢熊野住吉豊國ノ社有^レ之 當山ノ西ノ方ハ入海ニシテ尤塩濱也 此辺

ニテ焼塩ヲ雜賀塩ト云テ名物也 其色極テ白シ

本堂ヨリ西ヲミルニ阿波土佐見ユ 諺曰 此所ハ大唐ノ八景ニモオトラス 恨ハ洞

庭月一ツ缺トカヤ 誠ニ絶景ノ地云ヘシ 目前ニワ和歌浦妹脊山玉津島養珠寺

ナト直下也 此所ヘ渡ルニ満汐ニハ船渡有 潮干ニハ歩ヨリ行ト 路十八町也 沼

ニハ蠣多シ 並苔^{イリ}生ルイモセノリト謂^レ之 亦少シ北ノ方リ宗祇カ瀬ト名ヅク 同

側ニ松有宗祇松ト云 往昔連歌師宗祇 当国有田郡 藤浪産人云也 此處ヲ渡テ玉津島百日マフデヲセ

シ所也 依^レ之名トスト云リ 彼玉津島明神ノ御事ハ景行天皇ノ后衣通姫ノ廟所ト

カヤ 此所ニ鎮座ノ濫觴 今明ニ知人ナシ ○○原本ニ景行ハ允恭ニ改ムベシト書入アリ

後撰 恋三

玉つしまとふき入江をこく船の うきたる恋もつきはつるかな

本地ハ聖觀音也 神樂有^レ之 神職ハ高松采女ト云 亦此並ニ牛カ窟ト云名所アリ

俗ニカタミノ岩屋共云ヘリ 慶安年中此所ヨリ唐ノ鏡ヲ掘出セシヨリ号スト云 洞ノ内ニ小社有^レ之 昔高野明神ノ御輿此窟ヘ毎年渡御アリシトカヤ 子細ハ高野大明神玉津島姫ヲ思召テ 馬ニテ忍ビ通ヒ玉ヒケルヲ 丹生明神易カラ又事ニ思召テ 彼玉津島ノ神ヲ奉レシ時ハ 丹生明神ノ御前ニテハ輿ヲナラサ又事ニ侍リト云 但神輿ヲ奉ルコトハ今ハ断絶也 高野ノ大師第七卷ニ見エタリトカヤ

家集 牛ノ窟ノ事

公任卿

あま人ののりわたしけむしるしにや いはやに跡をとじめおきけん

同並ニ妹背山有 是ハ前大君頼宣卿ノ御母堂養珠院殿ノ正保年中ノ御草創也 朝日屋 芦辺屋トテ茶屋ニ軒有 其前小橋三カヘレリ 是ヲ渡リテ妹背山ニ詣ル也 經堂ハ一石ニ一字ヅ、法華經ヲ書写シ奉納セラレシトカヤ 經堂ノ前ニハ水中ニ石柱ヲタテ、其上ニ槻ヲ以テ作レル舞台アリ 山ニハ二重ノ塔有 尤殺生禁断ノ地也 御堂守ハ暁雲ト云二人扶持被^レ下 同並ニ菩提寺有妹背山ノ養珠寺ト号ス 法花宗也 此山ニ妙見菩薩堂有 先君ノ草創也寺領二百五十石宛寄ニ付之一 亦此寺ニ京都

原本菩薩ヲササト書ス 佛者ノ畧字トテササボサツト云也ニ依テ考フルニ著者ハ佛弟ナランカ

芝口曰ク 必ズシモ然ラザルベシ 宝塔トスベキヲ二重塔ト書スルナド佛弟トシテ疑ハシ

ノ地下人ハイ屋三郎右衛門ト云者ノ妻ノ書ル法華經一部有 是ハ寛永年中吉野ト云テ名高キ遊女 京都ノ者ナリシカ彼灰屋ニ嫁シテ後 現世後世ノ祈ノ爲ニ書写シケルトソ 筆勢美ト云リ 若州長源寺ノ住持日演ハ 吉野ノ帰僧ナレバ附ノ興シケルトヤ 日演ハ後年養珠寺住持セリ 故ニ彼法華經ヲ此寺ノ什物トセリ 彼寺ノ良愛宕山ノ西ノ山際ニ 鶴立島ト云舊跡有 碑銘李 昔此ワタリニ芦辺寺ト云テ 青面不動ノ堂アリシト云傳 中比源義經讃州八島ノ内裏ヲ攻タマヒケル時 臣佐藤嗣信教經^ヲノ箭先ニカヘリテ馬ヨリ落 其折洲崎ノ堂ヨリ遣戸ヲ取寄 是ニ乗テ義經ノ御前ニ

出シト云事有洲崎ノ堂飛驒造レ之云エヲ當所ニ引テ芦邊寺ト号ストカヤ 由緒ヲ聞クニ天文

年中コノ讚洲八島洲崎ノ堂守ハ紀州ノ者ナリシカ 其比乱國ニテ兵火ノ爲ニ此堂ノ

焼ナキ事ヲ悲ミ 彼堂塚壊カ 筏ニ組テ舟ニヒカセ 本尊青面不動ヲモ守テ 紀州海

士郡ニ歸テ 當所ニ彼堂ヲ取立 改テ芦辺寺ト号ス ソノ後天正ノ比才木ヒニ當國

モ乱國ト成テ 爰カシコ彼ニ兵火多シ 故ニ再此堂ヲ名草郡山東庄黒岩村ニ於テ再興セ

リ 然ニ慶長初ノ比 當國ノ主淺野但馬守長晟ノ内室会津御前ト申奉ル是也 蒲生飛驒守秀行後室

也 當國ヘ御入奥ノ後聞召テ 又彼堂ヲ同國岡ノ谷ニ合レ引タマヒ 且ハ御祈願所

且ト岡大明神ノ別當職ヲ勤テ 松生院芦邊寺ト号セリ 然レドモ近年岡大明神ヲハ

唯一ニ改サセタマフニヨツテ 芦邊寺ハ今ハ神職ヲハ不レ勤ト也

妹背山ヲ西ニ行和歌ノ市町マチニ出ル 此町ノ中ニ大相院有 是ハ六坊ノ内ニテハ滅罪

寺也 夫ヨリ下馬橋ヘ行也 欄干共ニミカゲ石也 傍ニ七尺余ノ長石ニ二字札ヲ彫

ノ字カテ是 ヨリ左ニ中道有 是ヲ行ハ御旅所並出島ヘ出ル也 下馬橋ヲワタリ右手ニ宝

藏院 正法院 玉泉院 和合院以上六ヶ坊ノ内也 相並ヘリ山ニハ 東照大神宮ヲ奉崇シ玉フ也

麓ニ石ノ鳥井有 碑銘左ノ柱ニ 維明堅萬世垂レ跡 右ノ柱ニ東照掲日華表劉レ石云

スベ 是ヨリ御神前ヲ石段也 御宮ノ右手ニ御供所有 此ノ並右ノ手水鉢有 此際

・(秀) 二大木ノ櫻有レ之 御手水鉢ノ櫻ト云 色香透逸ナレバ花ノ比ハ貴賤群ヲナセリ

是ハ野州日光山ノ御手水鉢ノ株ヲ接セラルト云ヘリ

原本ニ山トセリ 後(次頁)ニ円威院トアリ

御神前ヨリ麓マデ石燈籠左右ニ並ベリ 麓ニ御橋有テ辨財天有 別當ハ和歌浦天曜

寺雲蓋院權僧正也 ト号ス 外ニ六ヶ坊有所レ謂 六ヶ坊ハ和合院 正法院 円成院 玉泉院

宝蔵院 大相院是也 社領千石被ニ寄ニ附之 此内二十石宛六坊へ配分スル也

和合院 八前抑當大猷院殿ノ御靈廟有レ之 是ハ先君頼宣卿承應四乙未年四月廿日御
造立也 大奉行渋谷角右衛門重信 御造工奉行松下秀十郎信綱 栗生利右衛門重正

△オナジ
所力
大工ハ中村藤吉 藤原宗久等也 同最有院殿ノ御靈屋アリ 故ニ御供領別ニテ現米
百石余被ニ寄附一テ 又天神山モ此御山ニ續也 大権現ノ御山ハ元来天神山ナリシヲ

御勸請以後モ其代地トシテ天神田畠御寄進有レ之 慶長十年浅野紀伊守幸長再興シ
テ豊國大明神ヲ勸請シ 天神ト号セラレケルトソ

此並ニ觀音堂有 慶長四己亥年二月 桑山治部卿法印宗栄建立セラル 奉行ハ時ノ
代官三谷太郎兵衛 大工ハ和歌山ノ中屋與左衛門ナリシト云ヘリ 山門ニ額有高陽
門ト云シ 拜殿ノ歌仙共二三貌院ノ筆也ト云 近年順礼樂書ヲ爲ニヨツテ 歌仙ハ

今納蔵ニ納タリ 麓ニ神主有 安田兵部少輔 元号ニト云 從五位下 初任トカヤ大

左馬一

権現ノ神職ヲモ兼勤ト也 此隣ニ六坊ノ内円威院アリ 華表麓ノ葭原ニ有 是ヨリ
出島村ヘ行 則和歌ノ浦ナリ 風景他國ニナラヒナシ 陸奥チカノ塩釜浦ニハ遙ニ
勝レリトカヤ 世俗誤テ此海ヲ片帆浪ト云リ カタヲ波トハタゞ浪ノウハサニシテ
浦ノ名ニアラズト也 右手ノ山ノ腰ヲ海辺ニツタウテ 田ノ浦 雜賀崎ニ行也 此
浦ハ何レモ漁師也 右手ニ行ハ毛見浦 琴ノ浦ニツヘケリ

× 片男波 女波ナキ故片男波ト称ストナス

續古今 雜

山辺赤人

和歌の浦に汐みちくればかたおなみ あし辺をさしてたつなきわたる

又紀三井寺ノ前入海ヲ少シヘタテ、向ノ砂濱ニ布引松有 往昔日前宮ノ神鏡此處
ニアラセタマヒシニ 餘光陸ニ移ル 故ニ往還ノ人民是ヲ奉レ恐ニヨツテ 此松ニ
布ヲ引テ光華ヲ蓋奉 夫ヨリ此松ノ名トスト云リ 此所ニ先君ノ命ニヨツテ新田並

民家十六軒ヲ三葛村ノ土民ニ被ニ建下^レ之 三郷村ト名附サセラレシ也 今家数多ナシ日隈ノ神鏡此浦ニ始テアラセタマヒタリト云ヲ 今旧部三社ヲハシマス 毎年九月廿三日國造爰ニ來テ行有シト也 今ハ斷絶ナリ

倭姫命世紀曰 五十一年四月八日遷ニ木乃國奈久佐濱宮ニ積三年之間奉^レ齋 于^レ時紀伊國造進ニ舍人紀麻呂良地口御田ニ云々

然レバ大神宮伊勢國度會郡五十鈴ノ河上ニ鎮座シ給ハサリシ 以前ノ旧跡モ此所ニヤ猶尋ヘシ

夫木集

仲正

春風に浪のしらふる琴の浦は かもめの遊ぶところなりけり

右ノ所ハ順道ヨリハ妻手ノ方濱辺也

● 右手ハ馬手 左手ハ弓手也

◎内原村馬次也 村ノ入口ニ右手ニ小社有 是ヨリ少先ニ松ノ中洞ニモ小禿有 此所ニ藻久津川橋ノ長十四間ハバ一間半有 旧跡ト云 村ハツレニテ少ツヘ上リ下リノ道ナリ

◎黒江村 此所ヨリ洪地椀ヲ塗出シテ諸國ニ商買スル也 干潟村ニテモ營^レ之 總テ

黒江椀ト云 黒江村 干潟村ハ家ツゞキ也 堺橋長十間有^レ之 少シ坂有 此浦ヲ黒牛海ト云名所也トソ 十一代集ニハ國不^レ知ノ内也ト云々 ○云ノ字ヲ脱セルカ(芝)

◎干潟村 浦トモ云 内右側ニ永正寺 浄土ト○寺領拾餌アリ 此浦ニハ馬刀小恰 郭公貝

桜貝 紅粉貝多シ 此浦ノ眺望尤勝レリ 先君ニモ潮干比月ノ比ニハ度々御遊覽アリシ所也 頃年和歌山ノ地下人 海ヲ築出シテ塩濱トナセリ 其大ナルコト云ハカリナシ 故ニ此浦ノ風景イニシヘニハハル力劣レリ 此所ト名高浦トノ間ニハ小川

二ツ有 板橋幅四尺計長四十間 一ツハ長五間幅四尺也

◎名高村 浦トモ

是ヲ俗ニ誤テ中田ト云リ

在所ノ外濱邊順道也

此浦ハ名所也 遠州

二同名アリ

萬葉集 十一

人 丸

紀の海の名高の浦による浪の おとたかくしてあはぬこゆへに

毛見ノ浦 船尾浦ハ此浦ツヅキニテ申酉ニ當レリ 尤濱辺遠淺也 大野村ハ是モ順道ヨリ右手ニアタレリ 本道ヨリハ見ヘ兼タリ 此所ニハ四季共ニ穗蓼有^レ之 亦鼠尾草多シ

◎藤白村 鳥居村馬次也 両村ノ高六百十二石余 家数百五十二軒 内三軒本役家也 傳馬十二疋有^レ之 在所家内ハ往来ヲス 右手濱辺ヲ順道

藤白坂ノ上口ニ名ニヲウ白藤右手ニ有 往昔此所ニテ有馬皇子自害シ給フト云傳タリ 齋明天皇四年十一月二日ニ謀叛ニ依被害トカヤ 弓手ノ山際ニ鈴木ノ屋敷有 昔源義經ノ臣鈴木三郎 亀井六郎當所ヨリ出タリト云 今二三郎六郎ト号シ 彼後胤此所ニ居住ス 坂ノ麓ニ茶屋有 此向ニ若一王子ノ社有^レ之 本地ハ千手觀音阿

弥陀不動也ト云 社領六石社僧ト真乘院

真言宗也

ト号ス

拜殿ノ前ニ楠大木有

其下ニ

昔ノ鈴木 亀井ノ石塔有

社前左右ニハ塩竈ノ桜有

峠ヨリ少此方ニ忘水ト云名水

有 左ノ峯ニ巨勢ノ金岡ガ筆捨松ト云テ大木有 金岡ハ宇多天皇ノ御宇ノ画師 秀逸ナルカユヘニ官位昇進シテ 正二位大納言ニ叙任セラレシトカヤ 其譽類ナキ人

也トゾ聞疊シ

峠ニ石佛ノ大地蔵有^{堂一宇也}

地蔵ノ背銘曰

勸進聖揚柳沙門心靜元亨三

癸亥十月廿四日大工薩摩権頭行經ト雕刻セリ

右ニ行記之異說ニハ龍宮城ヨリ上リタル地蔵ナルカ故ニ今カキナガラ有之ト云

側地

藏寺

真言宗也

有

寺領八石被^レ寄ニ附之ニ同所ニ茶屋有

此地子ヲハ依ニテ先君之貴命ニ而

永代是ヲ被ニ免許ニ

同側二山奈^(名)陸奥守力石塔有[○]之

地藏ノ後少シ上ニ當テ

白川

○ 石塔トアルハ宝篋印塔ナリ 紀伊名所圖繪ニ山名氏清ノ墓ト云ヘド確証ナシトアリ (芝)

● 藤白峠地藏ノ西十五間地藏峯寺ノ境内ニアリ 花山法皇熊野御幸ノ時頓宮ノ御址也 御所ノ芝ト申ス 今モ聖護院入奉ノ時此所ニテ休息ス 眺望雄大

法皇熊野御幸ノ時仮ノ皇居ノ跡有^レ之 御所ノ芝ト云処ヨリ西ヲ臨メバ 播州 摂州

泉州並四國等咸直下セリ 風景餘類ナシ 万鏡一瞬ノ地也 彼金岡モ此所ヲ眺望シ

テ筆ニモ不^レ乃ト云ヲ 筆ヲ棄テシ里ト云傳 峠ヨリ二三町モアナタヘ 下テ右手

ノ方ニ冷水村 椒村ノ浦辺 御殿地等悉ク見ユル 塩津村同シ並ニ有 和歌浦へ行

クニ日和宜時ハ 此塩津ヨリ渡海シテ善也 往還ノ旅人有田 日高ノ土民トモ 賀

茂谷坂 藤代坂ヲ除キテ大形^(方)塩津浦ヨリ舟ニテ和歌ノ出島村へ上ル也 藤代坂ハ上

下二十五町名草 海部兩郡ノ境也 南へノ下坂ニハ温^{おんじやく}石多シ

續後撰 旅

僧正 行意

藤代の御坂をこゑて見渡せば かすみもやらぬ吹上のはま

◎賀茂谷 橋本村 市坪村何レモ馬次也 両村ノ高八百六石餘也 同棟数百七十軒内五

十九軒本役 同傳馬十七疋有^レ之 ムカシ此所ニ賀茂何某トカヤ云侍居住シテ 賀

茂ノ庄十ヶ村ノ余高ハ今ノ検地二千石余知行セリ 去天正十三乙酉年秀吉公當國御

進發ノ時 本知ヲ没收セラレ 賀茂ハ其後當所ヲ逐電セシト聞ユ 其被官共土民ノ

間ニ多シ 此村ノ山手道端右手ニ明神有 即賀茂大明神ト申奉ル 諺田洛陽○賀茂

(日)ノ
字ヲ加フ

大明神ハ當所ヨリ勧誘セシト云リ 村ノ中程ヨリ山ニ上レバ 三穗窟 恨瀧有^レ之

万葉集 雜四

紀の國三穗の窟をよめる

博通法師

ときはなる窟はいまも有けれど 住けん人はつねなかり里

麓ヨリ行ニ大竹ノ藪左右ニ茂レリ 瀧本ニ堂有本尊觀音也 先君御一代ノ御守本尊
虚空藏木佛ナリノ像ヲ納奉ルナリ 江戸御發駕ノ節ハ羈旅キリヨノ御祈禱トシテ御發駕ノ朝ヨ
リ御着府ノタマデ開帳シ奉ル事ニ 今断絶ナシ同「芝口氏写本に「間誤写有リ抹消セリ清水」
御寄進ノ毘沙門天ノ木像 亦惠心僧都ノ筆ニテ 金泥ノ二十五菩薩ヲ顯ハシ玉フ畫
像有レ之 是ヨリ少シ下リ別當坊有 岩屋山福勝寺金剛壽院ト号ス 真言宗ナリ
寺領少有レ之

蕪坂上下三十二町海部 有田兩郡ノ堺也 此峠ヨリ二三町下テ右手ノ谷ニ 慶徳山
長保寺陽照院ノ門前並長屋等見ユル 此寺ハ昔日長保年中ノ敕願寺ニシテ 七堂伽
藍也シトカヤ 今礎ナドノ殘レル有レ之 有増アラマシ什物ヲ記セバ

法華經 四七品

序 品

後深草院

譬喻品

坊門局

方便品

九條光明峯寺関白道家公

信解品

二條慶融法眼

藥草諭品

二條亜相爲氏

受記品

九條亜相教家

化城諭品

大僧正慈鎮

五百弟子授記品

泉涌寺俊ジャウ□國師

泉涌寺長老第一代俊ジュンジャウ □

人記品

日國師

法師品

後京極摂政良經公

見宝塔品

二条大納言爲氏

堤婆品

同 爲氏

囑累品ナリ（芝）

勸持品

後白河法皇

安樂品

後京極良經公

從地涌出品

同 良經公

如來壽量品

同 良經公

今別功德品

後深草院

隨喜功德品

二条爲久卿

法師功德品

良經公

常不輕品

爲氏卿

如來神力品

後鳥羽院

囑影品

俊ジャウ口國師

本事品

仁和寺守覺法親王

妙音菩薩品

坊門局

普門品

從二位家隆卿

陀羅尼品

四条局安嘉門院

妙莊嚴王品

月輪関白兼胤公

勸發品

守覺法親王

等ノ御筆ナリト云リ 又般若心經並阿弥陀經合卷 是ハ世尊寺三位行能卿ノ筆也

右何レモ古筆菴丁仲改極ル所也 此外靈佛靈寶カス員ヲシラス 不レ違レ記 近年先君

ノ兼テ御遺詔ニテ 御尊体ヲ此山ニ奉納也 天台宗寺領五百石被ニ寄附一也 彼山林

等咸此辺ヨリ見ユル也 此峠ヨリ宮原莊畑村ノ内也 又峠ヨリ左ノ方ニ大磐石有レ

之 世俗ニ天狗休ノ岩ト云 此所ハ魔所ニテ土民等柴草モ刈ラズト云リ 亦峠ヨリ

二町下ニ大岩ニ地藏ヲ彫刻セリ 往昔弘法大師爪ヲ以テ彫給フト云傳タリ 岩ノ四

面ヨリ蔦葛生ストイヘトモ 佛顔ニ力ヘリヌレハ則枯ト云リ 瘡病ノ者洗米ヲ供シ

立願スレバ忽ニ癒トナリ 此外ニモ奇特多シトカヤ

◎宮原道村南村 瀧川原村馬次ナリ 高千四百八十七石余ナリ 棟数二百六十六軒
内百二十七軒本役也 傳馬四十二疋 本役何レモ三ヶ村分也 此辺ヨリ在田蜜柑ト
云名物出ル 風味類無シト也 村ノ出ハツレニ大河有^レ之 在田川トモ宮原川トモ
謂^レ之 川上ニ伊都郡高野山ノ西大門ヨリ流落テ 此川下箕島村ニ流海ニ入ナリ
川ハゞ六町二十間 常ハ歩渉ナリ 洪水ニハ渡舟有 旅人ノ船チン不^レ定 郷民ハ
秋ニ至テ麦米ヲ以テ價^レ之 然ニ此川ノ鮪^{ハヤ}極メテ大ニシテ風味他所ニ異也 高野一
山ノ惡水此川ニ流ル依^レ之尔ト世ニ云 □[?]セイ川ハタヨリ 弓手ニ行ハ馬道 藤浪村ヘ
ナレトモ湯淺村行ニハ五六町モ遠シ 川甘^{ハタ}ヨリ右ヘ行ハ近道ナレトモ道惡シ
糸^系我山^山◎糸鹿村いとが坂上下十四町有 白河法皇熊野御幸ノ時 平忠盛供奉ニ候ヒケル「イ
モガ子ハハウホドニコソナリニケン」ト申上ケレハ「タゞモリトリテヤシナヒニセ
ヨ」ト仰セラレケルモ 此坂ニテノコトナリトカヤ

山家集

西行

いとか山しくれに色をそめさせて か津くおれるにしきなりけり
自是吉川村ヲスキ不^レラベ^{（比）}峠ト云坂ヲ經ル 五町三十六間有^レ之 此麓ニ逆川ト云名
所アリ ●不^レラベ峠―ホウズ峠―方寸峠（紀伊國名所圖繪）章博

夫木集

爲家

きゝわたる名さへうらめし熊野路や さかさま川の瀬をいかにせん
逆川ノ王子ノ小社有 糸我庄ノ内別所村ト云所ニ 往昔中將姫ノ旧跡有^レ之 則得
生寺ト云寺ニ委細ニ記^レ之セリ 其調ニ曰

雲雀山
得生寺

紀州有田郡糸我庄中之番雲雀山得生寺 人皇四十七代大炊天皇 御宇天平

私云
云麿帝天皇
ノ御事力

寶字年中ノ草創也 抑由来ヲ尋ヌルニ 往昔横佩右大臣豐成公ノ息女中將ノ内侍十
三ノ御時 繼母ノ讒言ニテ當所^{ヒバリ}□山別所谷ニ籠居ナサレヨリ 隨身申奉ル刑部春
時ト申者 此地ニトマリ奉育セリ 春時剃髮シテ得生ト改名セリ 同四年冬十月十
三日ニ往生素懷ヲ遂ゲタリ 其菴ノ名ヲ得生寺ト号ス 相續 空也 海運 源信 文覺
西行等此山ニ跡ヲ殘給ヘリ 靈宝数多有^レ之 縁起ニ委細書載シ 當寺ノ鎮守ハ蛭
子八幡 春日三社ヲハシマス

當山旧跡ノ事

清水 是ハ中將姫三年此水ヲムスヒ給ヒケリ

下ノ堂 空也上人一字建立ノ所也

阿弥陀井 同上人手ツカラ掘玉フ井ナリ

西堂 西行別院建立ノ所ナリ

中ノ堂 中將姫主從三人ノ菴ノアトナリ

机岩 中將姫此岩ヲ机トシテ称讚浄土經ヲ寫給フトコロナリ

上ノ堂 惠心僧都千駄佛刻給フ所也

伊藤ヶ嶽 此所ニテ姫君ノ命助ケ奉リシ也

經ノ窟 浄土經書写成就シテ籠玉フ所也

白山権現 春時力靈廟也

右ノ外自然水トモシト云所 中將姫ノ坪ト云字ノ田地ナト有

糸我峠ニ春時ノ妻ノ石塔有^レ之

會式ノ事

三月十四日 中將姫遷化シ給フ日也

六月廿三日 曼荼羅織給フ日也

十月十三日 得生入道命日也

中將姫當山ニ入玉ヒテヨリ元禄二己巳マデ凡九百三十二年ナル

元禄二（一六八九）年ハ本書著作ノ年ナルベシ

中將姫山居語

此筆者飯尾氏宗祇也 連歌師匠

無男女堺界 無愛欲之思

無妻子眷族 無養育之望

貧窮無福身 無盜賊之恐

不断行念佛 无聖慶之望

木食草衣身 不受諸人煩

長夜闇無燈 己身自爲灯

独居住小菴 無造作之望

我看心佛則 无給木仏求

深山人不通 無勤行懈怠

雖西方遠程 行者有眼前

中々ニ山の奥こそ住にけれ 草木は人のとかをいはねば

いとかとは我わけそめしかた糸の 法の力でおりに立てゝみむ

くれはとりあやしと思ふ極樂や 織あらはして誠をやみむ

右白山権現ノ利生多シト云リ 分テ蝕齒ノ痛ヲハ諸人立願ストイヘリ 亦糸我村ニ

腹帶地蔵有^レ之 懷妊ノ貴賤此本尊ニ立願スレバ平産ナリト云

湯淺町ノ入口ニ顯國大明神ノ社森ノ内ニ有^レ之

◎湯淺村馬次也 高九百十五石余ハ里方也 外二七百六十五石浦方也 棟数六百五十

一軒「里方浦方共ニ」但此内五十九軒ハ里方本役家也 百八十三軒ハ浦方本役家

也 傳馬廿五疋有 往昔此所ハ湯淺権頭宗義ト云者 湯淺ノ庄七ヶ村今檢地五千石

ハカリノ領主也 中比子孫断絶セシニ 尊氏將軍ヨリ同國貴志ト云者ニ家督ヲ賜ハ
ル 故ニ湯淺ト貴志ト同家ナリト称ス 其後白樫ノ何某 湯淺ノ庄ノ領主ト成テ
代々此所ニ住セリ 太閤秀吉天正十三年當國御動座ノ時 白樫父子御味方シ度々軍
功ヲホドコセリ 其後左衛門ガ子白樫主馬助 同三郎兵衛兄弟知行三千石余 於ニ濃
州大柿ニ下行セラレシニ 元和元年ノ夏五月七日大坂落城ノ後 和州へ浪人セラレ
シトソ聞ヘシ 此村ノ老弱ノ女共ハ網ヲ拵ル事ヲ業トセリ 房州ニツカハシテ鰯網
ニ商賣スルトカヤ 在所ノ外廣村トノ間ニ湯淺川有^{シロウラ} ハバ四十八間有トイヘリ 常
ニ步渡リ冬ハ板橋掛ルナリ 此川下ニテハ冬ノ比^{シロウラ} 取ル也 廣村ハ行ニテ五六
町モ川上ニ行 此間ニ中村 殿村ヲ通テ井関村ニ至ル也 湯淺村ヨリ本道ヲ井関村
へ行ニハ右ノ三村ハ不^レ通 又廣村ニモ民家千餘軒モ有^レ之 廣村 湯淺村トモニ繁
昌ノ地ナリ 廣村ニハ八幡宮有^レ之 社領十五石毎年八月十五日ニ祭礼ヲ執行ス

從ニ國君ニモ御代参有<sup>御供番
勤之也</sup>

同シ並ニ御殿[×]アリ 近年被^レ廢^レ之 今ハ其跡ハカリナ

リ附タリ 廣村ヨリ由良ノ庄ニ行ニハ 西廣村ヘカヘリ行ナリ 海中ニ鷹島アリ

× 御殿跡ハ今ハ養源寺トナル

玉葉集

高弁上人

我さりて後に忍はん人なくは とひてかへりねたか島の石

夫ヨリ由良坂ヲ越ル 上下廿町有^レ之 此麓ニ畑村ト云有 是ヨリ門前村<sup>興國寺門前ニ
アリ故ニ呼</sup>

へ出ル也 由良庄ハ入海ヲ西ニ受テ 横濱浦 網代浦 糸屋浦 阿戸村何レモ在家多
シ 尤此浦ノ風景言語ノ乃フ所ニアラズ

新古今 戀

曾根好忠

×× 是所ノ由良 淡路ノ由良?

ゆらのとをわたる船人かちをたえ 行衛もしらぬこひのみちかな

網代浦ハ先君ノ御殿海濱ニ有ヨシ 今ハ廢セラレタリ 右門前村ニ興國寺ト号シテ
臨濟宗有^レ之 此開基ハ法燈國師也 尺八ヲ業トスル虛無僧ヲ 大唐ヨリ召シ歸朝
シ玉フ也 故ニ虛無僧ノ本寺トスル也 寺領十三石有^レ之

◎井関村馬次也 高二百九十二石余 棟数四十八軒也 内二十二軒本役 傳馬十六疋
有^レ之 村ノ入口ニ井関川幅十六間也 此村ヲ十四五町モ行テ又川アリ 幅十二間
有^レ之 常ハ板橋ニテ 此在所ハ川ニツニツツミタレハ 洪水ニハ馬疋ノ通ヒナシ
故ニ歩立ノ旅人ハ是ヨリ左ヘ行キ 尾山^{（小山）}越トイフヲ行ナリ モットモ此道惡シ

熊野獨參記 卷第一終

熊野獨参記卷第一の活字化を終わって

父の手写本は昭和廿五年八月に、芝口先生から借り写しているが、昭和七年に中根七郎氏が県立図書館本を写し、中根氏の写本を宇井龍水氏が写し、それをさらに芝口氏が写している。コピー機のない時代に、こうして手写本した苦労が忍ばれる。

この『熊野獨参記』は内容から元禄二（一六八九）年頃の著作で間違いないようであるが、筆者の氏名が不明とされている。ところが『紀南郷導紀』（熊野獨参記の別名か）には児玉莊左衛門と作者名が出ているようである。

写本にも柏木家本・田所家本・藤畑家本・県立図書館本等四系統があるという。私の今回の活字化に使用したのは、県立図書館本系統の物であり、各写本により多少の違いがあると思う。

平成十七（二〇〇五）年六月十日

清水章博

熊野獨參記 卷第二

◎河瀬村 弓手ノ道耳^{バタ}ニ西國三十三度順礼ヲ廻國セシ河瀬六郎太夫力石塔有 彼力
信心具ニ先君ノ御耳ニ達ス 則依ニ貴命ニ子々孫々ニ至迄数多ノ田地ヲ被ニ下置ケル
也 六郎太夫ハ程ナク死スニ今其子孫繁昌セリ 下賤ノ民ナレトモ信心誠アレハカ
ル不思議ノ御慈ミニ奉^{カナヒ}逢事ヒトエニ事 ヒトヘニ念佛觀音力ノ御誓ニ依テ 寛
仁大度ノ賢君ノ御意ニ協^{マコトナリ}奉ル事 仰テモ猶餘リ有 慈眼視ニ衆生ニ福聚海無^{ナリケリ}量ト
成^{ナルラン}護侍ルモ実哉 鹿脊坂上下廿二町 在田・日高兩郡ノ堺也 ●成^{ナリケリ}梟ナラン(芝)

廬主

鹿のせ山にねたる夜 鹿の鳴をきへて

増基法師

うかれけん妻のゆかりに勢の山の 名を聞てやしかもなくなり

◎原谷村馬次也 是高五百八十石 棟数六十軒内三十六軒本役家也 傳馬十七疋有^{ユリノハナ}レ
之 馬留ノ王子ノ小禿有 右手ノ海畔ニ和田・松原見ヘタリ 此所ニハ 移^{ユリノハナ}多シ
此浦ヨリ熊野ノ串本浦マデノ内 異國舟並ニアヤシキ舟着岸ノ時ハ 田辺ヨリ下知^{タナ}
ヲスルト云々 同入野山見ユル也 萩原村・荊木村・上富安村ヲ過テ明神^{タナ}ノ前ヲ弓

○ 小禿 前ニホコラトヨメリ(芝) ○○○ 入野山ハ入山ナルベシ(芝) ×× 明神ハ田藤次王子一般ニ善童子又出王
子ト云(芝)

手ニ行ハ 土生村ノ内道成寺ヘ往 其道十町アマリノマハリ也 道成寺ヨリ小松原
へ出ルニハ 御舟島ノ側ヲトヨリテ 八幡山・九海士之王子ノ小社ノ前ヨリ行クナ
リ 道成寺山ノ下東ニ當テ小富士ト云有 前君ノ貴命ニ依テ名付クト 小サキ山
ノ景好シテ木モナキ芝山也 駿河富士ニ似タル山也 ●川辺町入野大山のことか 章博

道成寺

天曜山道成寺

俗呼ニ之
鐘卷寺一

ハ文武天皇ノ敕願寺也ト云 本堂造立ノ時橘道成奉行シタル

廣目ノ誤

二依テ寺号トスルトカヤ 寺領五石被^レ寄附 本尊木像ニシテ丈六ノ觀音也 是ハ。
龍宮ヨリ九人ノ蜚出取来ルト云^{イヒナラハシ} 慣ナリ 左右ノ脇立日光・月光也 厨子ノ前ニハ

(芝)

ノ瓦ハ硯ニヨシト云 イツノ比ニカ有ケン 他國ノ者此寺ニ来テ上葺ノ瓦ヲ置替寄
進セント云テ 咸取代テ德付タリト聞由 寺内ノ右手ニ鐘樓堂並樓門ノ跡有 共ニ
礎計残レリ 當時ノ鐘ハ今武州ノ妙國寺ニ^有ト来由ヲ聞又ルニ 人皇百八世後陽成

△武州妙國寺ト云フハ京都妙滿寺ノコト(芝)

帝ノ御宇 天正十六年五月中旬 或人来テ時鐘ヲ寄附セント云ヘリ 僧徒悦テ右処。
ヲ問 被者云 一年紀州一乱ノ砌寺社民屋咸滅亡ス 故此鐘爰彼ノ手ニワタリ 今
ハ新宮ノオク我屋敷ノ藪蔭ニ置タリ 家内ニ惡事有ムトキハ必鳴ウメク 故ニ妻子
常ニヲソレ忌嫌テ 之ヲ寺ヘ可^レ送ト云 我是ヲ聞^ク口^ヲテ ワサト上京シテ鐘ノナキ
寺ヲ尋ヌ 然ニ幸ニ當寺ニ未見シニ故ニ寄進シ候ト 語テ遂ニ紀州ヨリ上シ鐘樓ヲ
當 然共此鐘響^{キス}瑾有テ声不^レ及^レ遠 爰ヲ以テ後又新ニ別鐘ヲ鑄 彼鐘ヲオロス時
衆徒評議シテ何故ニ鳴ウメカム イサ鑄加ヘテ大鐘ニセン シカルヘシト同心シテ
既ニ碎カントス時ニ 大霰降鐘ニ煙立ケレバ 皆是ニヲトロキ其マヽニテ捨 其此
ハヒビワレテ物ノトタルバカリアキタリシカ 今ハ癒合鑄鐘ニ同シト云々

彼鐘銘ニ曰

聞ニ鐘声一 智惠長 菩薩生

煩惱輕 難地獄 出火^レ坑

願成^レ佛 度ニ衆生一

天長地久 御願國滿

聖明齋ニ日月一 叡算等ニ乾坤一

八方歌ニ有道一 君ニ四海一樂ニ無爲之化一

紀州日高郡矢田庄

文武

天皇敕願 道成寺治鑄鐘

觀進比丘端光 別堂法眼定秀

〇〇 勸進ノ誤（芝）

△△ 別當ノ誤（芝）

檀那源萬壽丸並吉田源頼秀

合力諸檀男女

大工山田道願 小工大夫守長

正平十四己亥三月十三日

門外ノ石段六十二段有レ之 四座ノ猿樂乱拍子トテ大事ニスルモ 彼石段ノ数ヲ踏ムトカヤ 亦左ノ田ノ中ニ蛇塚トテ少シ芝ヲ取残ス 是レ蛇ノ入タル所也ト云傳タ

リ 當寺ノ縁起

開帳金
子一步

八画師土佐將監 詞書ハ徹書記

千異院
小松院

力筆ナリト云ヘリ 奥

書ハ將軍靈陽院義昭公 由良興國寺來臨ノ時 照覽有テ加ヘ判形シ玉フト云ヘリ

近年新筆ヲ以テ是ヲ写シ 往還ノ旅人ニ開帳 青銅
百文 スル由 亦安珍力所持トテ 小扇

一本有レ之 由緒ハ元亨釋書 十
九 二詳也 故ニ爰ニ略ク

◎小松原村馬次也 高六百四十六石余 棟数八十二軒内四十三軒本役家也 傳馬二十

一疋有レ之 嶋村ヲ過テ日高川 天田
川共 二至テ 川ハバ七町半 常ハ徒渡リ 洪水ニハ舟

有レ之 旅人ノ船賃不レ定 近里ノ者ハ秋麦米ヲ以テ價レ之 此川上ニハ龍神 温泉
有之 ヨリ

流レテ 此川口海ニ至ル 又小松原ヨリ六七町乾ニ當テ丸山ノ城跡有 同ニ町程隔

テ二丸ナリトテ山有 城主ハ湯川家代々居城セリ 湯川力先祖武田次郎 甲斐源氏ト云
紋割菱ナリ

ト云者蒙ニ敕勘ニ奥熊野ヘ被ニ流罪ニ 或時クマノ山賊ヲ伐鎮ム 其功ニ依テ牟婁郡ノ

○内梅 内ヲ領シ同郡□梅ト云所ニ有シトカヤ 其末葉將軍尊氏卿ニ属シ功有二依テ 有田

(芳養)・日高・室三郡ノ内ノ内ヲ保テ當城ニ居住ス 武田次郎ヨリ十三代ノ後 湯川兵部

(芝) 少輔直春 天正十三年秀吉公本國御進發ノ節 己力居城ノ堅固ナルヲ頼リトシテ

敵対スルニ依テ 御先年藤堂與右衛門後佐渡守又
号二和泉守一・仙石權兵衛後号二越
前守一・杉若傳三郎

後号二越
後守一 等馳向フト聞テ 敵ノ旗頭ヲ見ルマデモナク 数代ノ居城ヲ棄テ奥熊野サシ

テ逃去レルトゾキコヘシ

◎天田村此在所日高川ノ耳ハタニ有 此村ヨリ十七八町川上ニ和田村有 則道成寺川ヲ隔

○和佐村 向北也ト云 此所ニ手取ケ城ト云古城ノ跡有 是ハ昔玉置大膳亮力居城也 大膳

ノ誤ナリ
(芝) ハマ紋スハ 牟婁郡市瀬ノ主 山本主膳トハ相婿ニテ共ニ舅ハ湯川也 渠力カ先祖ハ岩城

判官トテ奥州岩城ノ住人也 ハサハラノ説經ナトモ 山椒大夫トイヘル彼力事ヲ作り

タルモノ也トゾ 然ニ岩城敕勘ヲ蒙リ奥熊野ニ流サレ 十六代異説二三
十代ト云 居住セリト云

リ 何レノ世ニカ天ヨリ玉降テ木ノ枝ニカヘリ数年ヲ經テ後 彼玉地ニ落タリスハ
マ形

石ト 夫ヨリ改テ玉置ト名乗ラルトソ聞ヘシ 八庄司ノ其一人 所謂八庄司者 湯川・小原・
芋瀬・鹿瀬・蕪坂・玉置・安

八庄司? 七氏ノ名ヲアゲシハ一名落筆シタルカ(芝)

阿瀬川 トシテ當所ニ於テ其名高シ 相模守平高時入道宗鑿力命ヲ含テ 大塔ノ宮ニ

弓ヲ引片岡八郎ヲ討取シ者也ト云リ 日高郡野口村ヨリ川上ハ福井村マデ 並有田

郡津木村等都合今検地一万六七千石程ノ主トソ也 天正十三年秀吉公ヘ内通シテ御

□ニ參ルニ依テ 知行無ニ相違ニ安堵セリ 則カ垂槐秀長卿ニ附ラル、 検地入テ後

○垂槐ハ大納言當ル

昔ノ高三千五百石下行シ給ヒシカハ 大膳心ウキ事ニ思ヒ剃髪シテ高野山ニ入テ
千手院ト号セシト也 事長故略ク

◎北塩屋村 王子ノ小社有^レ之

千載集 神祇

おもふことくみてかなふる神なれば 志^{塩屋}不^{塩屋}やに跡をたる成りけり

◎南塩屋村・野島村 名所也
ト云

上野村 私云上野ハ名所也
野島ハ不^レ審

名 寄

覺助法親王 或ハ覺祥
法師共

●祥↓語

いく塩路^{バタ}ゆうのみなとを漕出ぬ 上野のしかの声かすかなり

◎上野村ノ内道^{バタ}耳ノ弓手ノ藪ノ側ニ 中窪成石有^レ之 真砂庄司力娘ノ腰掛石也トイ
ヘリ 此村ハツレニ十三塚ト云有 昔山伏トモ爰ニ居テ盜賊シケルヲ 梶[△]原何某搏[○]

△梶原軍太夫↓南紀徳川史十一冊六三〇頁。 「ウチコロシ」ト讀ムベキカ(芝)

殺シ此所ニ埋メタリト云 此所ヲ廣芝共云 楠井村・津井村・此村ヨリ北塩屋マデ
他國ヨリ漁舟来テ網ヲ引運上ヲ出ス也 當所ノ土民ハ柴薪ヲ伐採テ諸方ヘ舟ニ積也
商賣ス 此間ハ沙濱小山有^レ之

◎印南村馬次也 高七百四十四石余 棟数三百九十一軒内九十五軒ハ本役家 傳馬十

七疋有^レ之 此所モ濱浦ニテ漁人多シ 村ノ中程弓手ノ方ニ印定寺<sup>淨土
宗也</sup>有 此庭ニ一

本立ニテ大サ五尺餘廻高二間半ノ蘇鉄有 今ハ土ヘ六七尺モ植込タリト云リ 光川
在所ヲ流ルヘ川幅三十間程有 左ノ方ニ小堂有 内ニ木像ノ觀音弘法大師ノ作トイ
ヘリ 風波靜ナル時ハ是ヨリ瀬戸ヘ舟ニ乗テモヨシ 切目坂上十町下一町 本村左
ノ方ニ五躰王子ノ小社有 此王子ハ取分利生アラタニヲハシマストカヤ 昔大塔ノ

宮逆徒ノ爲ニ襲ハレサセ玉ヒテ 南部ヨリ熊野ノ方へ落サセ給テ 此社ニ於テ御奉幣アリシニ 御夢想ノツケニ依テ是ヨリ和州十津川ニ赴セ給テ 終ニ天下ニ平均ナラシメ給フトカヤ 誠ニ靈驗殊勝ナル御事何モ是ヲ仰カサラン 神前ニ揚石 其形石燈籠ノ笠ニ

似タト云テ往来ノ族 此石ヲ舉テカヲ量ルトイヘリ 側ニ梅ノ水トテ名水有^レ之 是

ヨリ廿五六町南小山ノ腰ニ穴有^{其様如レ塚} 其数多シ 内ハ石ヲタヘミタル也 昔冰ノ雨降

シ時 此穴ニ蟄居セシト云傳タリ 有馬ノ皇子ノ小社アリ 切目川幅五十間 常ハ徒涉 洪水ニハ渡舟ナキ故往来留ル也 切目崎風アル時ハ浪アラシ

夫木集

讀人不知

見わたせは切目の山もかすみつゝ 秋津の里は春めきにけり

◎島田村 家数八十五軒 榎木峠上下廿六町内十一町嶮路也 中山ノ谷十五町木ト有

むつ松 小松林也 此所ニ前君ノ御自結ハセ給ヒシ松有 今ハ枯タリ

◎西岩代村 高五百五十二石九斗四升 棟数九十九軒内三十六軒本役家也 右手ノ方

ニ王子ノ小社有^レ之 橋谷在家少々有^レ之 ぬし山村 野中清水 長八尺横五六尺 深五六寸 村ノ中

ニアリ

○名所圖繪祐止トアリ(芝)

經 兼 祐正ト
モ有

いは代の野中の清水むすへとも 恋とばけたぬ物にぞ有ける

柳井 長八尺横五尺 深二尺五寸也 同村中ニ丘有 ふし山ト云 此ハ昔白河院此處ニ一夜皇居ノ由云傳

タリ 亦在所ノ南面ニ岸有 長四町高三十間有^レ之 此岸ニ浪ノヨルヲミレバ 浪

カシラハツアリト云ヘリ 土民ノ説ナリ 三十三所ノ観音順礼歌ニイヘルモ 此岸ノ事也トカヤ

結松 同南面ニ有^レ之 順道ヨリ右手ノ側ニ △△ふし山ハ伏山ナラン 今光照寺アリ(芝口) 志と、塚小歌ノ社ト云 旧跡有^レ之

●今志とゞノ藪ト云ヒ 神武天皇ノ矢竹ヲトリ給ヒシ処ナリトモ云ヘリ(芝)

島ノ名ニ「しとゞ」アリ「カビン」之ナリ(芝口)

拾遺 雑下

曾根好忠

我ことは元もいはしろのむすひ松 千とせをふともたれかとかへき

拾遺 雑下恋二

讀人不知

いかのせん結ひそめたる岩代の 松はひさしき物としらるゝ

此村ト東岩代ノ間ニ小川ニヶ所 小坂一ツ上下五町有 此海濱ヨリ末ノ松山ト名物ノ盆山出タリトカヤ云傳 村ノ中ニ土井ノ城トテ平城ノ跡有 是八百七八十年モ以前ニ岩代兵庫頭ト云者 東西ノ西岩代ヲ領セシ渠ガ出城也ト云ヘリ 退轉時代知人ナシ 此村ヨリ廿六七町北ニ當テ 市井谷ノ城ト云山城ノ跡有 是兵庫力居城也ト此海辺ニ一葉和布トテ多シ 風味他邦ニ勝レタリト

◎東岩代村 高三百九十三石五斗三合 棟数八十九軒内廿六軒役家也 村ノ中ニ田中ノ森有^レ之 八幡宮ノ社有^レ之 森二十六間ニ二十間有ト云

片倉坂 岩代坂トモ

南部峠地藏堂有 同所ニ茶屋有 片倉坂南部崎共ニ上下十五町 異説廿町

有^レ之

◎山内村 高五百二石六斗五升四合 棟数百八軒 此村ヨリ十五町海辺申酉ノ方ニ當テ 長十一町四十九間横二十間ハカリノ濱ヲサシテ千里濱ト云 此所ニ千手観音ノ堂有^レ之 又ウツクシキ小石多シ

題林愚抄

定家

雲きゆる千さとの濱の月かけは 空にしられてふらぬ白雪

此磯ヨリ三町ホト沖ニ 長二十間ハカリ横十九間ホトノ嶋有 中ノ島ト云 同所ヨリ四町半餘ホト隔テ 長廿八間横十四間ホトノ島有 一ノ島ト云也 同所ヨリ一町半程沖ニ 長廿四五間横十四間程ノ島有^レ之 三ツ島ト云 又同所ヨリ四町半程沖ニ 霰島ト号シテ相並四ツ島有 ^{一ツハ長一町半横四間 一ツハ長一町十間横四間也} ムカシ千里濱ニテ唐船破損セシト云 ^{于^レ今於風波荒キ時ハ此浦ニ唐墨流寄ト云テ} 童共是ヲ拾ヒテ往来ノ旅人ニ沾^レ之 突目ナトニ磨入立所ニ善ト云ヘリ

南部川幅二町

◎南部北道村・南道村馬次也 高三百十六石 棟数九十二軒内十五軒ハ本役家 傳馬十八疋有^レ之 南部新町家数廿二軒 ^{はすれ}外ノ左右ニ松原有^レ之 左ヲバナヒキノ松原ト俗ニ云ヘリ 熊野権現ヘナヒキテ有ト也 右手ハ田辺ニ繼[○]タリ 南部名所ナリ

大僧正 玄信 ^{○續クノ語(芝)}

浦人やなみまを別てきの海の みなべのかたにいそなつむらん

◎埴田村 二百五十六石七斗六升二合ノ高也 棟数四十六軒内三十五軒役家也 此浦ヨリ海上十七八町半沖末ノ方ニ 其廻十町程諸木生茂レル離島有 鹿島ト号ス

萬葉集 九

三名部の浦汐なみちそね鹿島なる 釣するあまをみて帰りこむ

此島ニハ椎子多シ 他所ヨリ大ナリト云ヘリ 此島ニ明神ノ小社有也 又此辺ノ浦ニ海馬ト云物多シ 妊婦此魚ヲ掌[○]ニ拳[●]テ産ニ臨メハ安産スト云リ 又一町半程沖ニ鵜島 長二十八間程横十二間計リアリ 又三町ホト沖ニ長十二町横八間程ノ島有 和布島ト云ナリ

・「ニギツテ」トヨムカ

高野坂 上下四町

◎堺村 高七十六石四斗七升五合 棟数三十九軒内廿三軒役家也 在所ヨリ巽二當六町半過テ 東手二黒キ島石アリ 袖摺石トモ云 日高・室郡堺目石ト云 此濱二先君ノ御殿有^レ之 今ハ被^レ廢 此濱ヨリ下芳養マデヲお不^レやの濱ト云也

◎下芳養村 切目村ヨリ此所マテノ土民ハ 柴薪ヲ伐テ諸方ヘ商賣ス はやノ濱ヨリ十二町午ノ方二當テ 東西ヘ三町北ヘ二町程ノ島見ヘタリ 本島ト云 同未ノ方二なひきの島有 海上廿四町程阻^ヘツト云リ 東西二町南北五十間程也 同所ヨリ申西ニ當テ相島有 海路一町ホト阻ツ也 長十間横四十間程アリ 同所ヨリいつめ島マデ舟路四町程申西ニ當レリ 南北ヘ四十間程東西十間 在所ヨリ三町西ニ當リ泊城トテ山城ノ跡有 城主ハ昔湯川式部大輔教春ガ居城也 秀吉公天正十三年當國御乱入ノ時 小松原丸山ノ城ト一同ニ落城セリ 則杉若越後守入場テ在城ス 翌年七月○一書知明晦日湯川・山本兩家ノ浪人共 不意ニ此城ニ推^押寄終日・終夜責戰 其節根来ノ智[○]院トアリ明院原右京ト云牢人根来ヲ落テ此城ニ来在シ 故^シ數^{ハシ}兩人ナカラ衝テ出 晴成討

(芝口) 死ヲシケリ 其後此城ヲ西谷村上野山ニ引タリトソ聞ヘシ サイサ力橋 是ハ往還ノ道筋ニ小キ土橋有^レ之ヲ云 但西谷村ヨリ七町西也 古歌有トカヤ云傳

蘇生山 土人誤テよろつ山ト云 西ノ谷ヨリ五町程西ニシテ往還ノ坂也 是又歌アリトカヤ云傳ヘタリ 是ヨリ西 ハヤ村トノ間ニ牛ノ鼻トテ岩穴アリ 其形牛ノ鼻如シ 此浦二角貝多シ 西谷ヨリ二町ホト子丑ノ方ニ上野山^{ハ王子山トモ云}ト云古城ノ跡アリ 天正年中ニ杉若越後守 芳養村泊城ヲ引テ此山ニ築ト云ヘリ 此山ニ八王子ノ小社有^レ之

◎西ノ谷村 高五百四十一石七升九合 棟数百廿七軒内廿五軒役家也 在所ヨリ南ヘ三町程行テ洲崎^{スサキ}ト云城跡有 慶長七^{壬寅}年淺野左衛門佐氏定^{彈正長政甥也幸長及長晟トハ從弟也} 上野山ノ

城ヲ引テ此所ニ築ト也 同十年大浪アリテ破壊セリ 故ニ又此城ヲ湊村ニ築ク於レ
今繁榮ノ地也 同所ヨリ二町程北ニ當テ城ヶ峯・御所ノ谷トテ有レ之 今ハ畑也
何レノ御所ト云事ヲ知者ナシ 又在所ノ前ノ濱ヲサシテ塩垢離ノ濱ト云 崇神天皇
熊野御幸ノ時 此所ニテ潮ヲ以テ浴セラルト云傳 又此ニ腰掛岩ト云有 御腰ヲ
掛ラレシ所ト也 二間廻リ高二尺ノ岩也 熊野參詣ノ人又鷄合權現ノ役人此濱ニテ
垢離スルト也

◎江川村 棟數百廿三軒 カラ在 家共 在レ之 江川ノ橋四十八間幅二間有レ之 同孫橋 小共 二間

横七尺有 此川ニテハ冬ヨリ春ニ至テ青苔・シロウオ 実者非シロウオ 又彼橋ヨリ右手ヲ見

小共トアルハ小橋トモ云 意カ(芝) 非白色トセル卓見也 ●勸修寺ハ今ノ高山寺ナリ

レハ丑方ニ糸田村有 此在所ノ半南ヘ御影ガ淵ト云有 昔弘法大師此淵ニテ御影ヲ
ウツシ白影像ヲ彫刻シ給フ 其木像今勸修寺ニ在 勸修寺ハ此村ノ上ノ山ニ有 又
彼寺ノ並ノ山ニ稻荷大明神ノ社有 城州伏見藤森ノ稻荷ハ當社ノ勸請シタリト聞由
于レ今田辺氏子ト云テ有レ之 又此村ツヘキ江川ノ少上ニ伊佐田村 是ヨリ一里ホト
子丑ニ當テ 平岩トテ高四尺廻リ五間ノ岩有レ之 此上ニテ弘法大師求聞持クモンジノ法ヲ
行ヒ給フト傳タリ

◎田邊城下 馬次也 郭外ニ侍屋敷軒ヲ賑レリ 傳馬二十疋有レ之 此所ハ元ハ湊村
ト云シ 今湊村ハ權現ノ道ニ移シ湊村ト云 當村ニ於テ榎ノ曲物・指物・塗師細工
ヲ事トス 其色世ニ秀逸ニシテ最他邦ニ無類也 又弁慶松ト云テ太サ三抱ハカリノ
大木有 本来ハ枯タリシヲ中比植テ 其ノシルシトスト云ヘリ 同側ニ弁慶ガ産湯
ノ行シ井也トテ 數ノ内ニ清水アル也 田邊ヲ過テ三町計巽ニ當テ蓬萊ト云山有
此山ニハ八幡宮並庚申堂・愛宕藥師堂有 堂守ハ願行寺ト云山伏也 此山ニ松輩多

シ

◎下萬呂村

高六百廿五石三斗八升一合

家數四十九軒内廿軒役家也

此所二初山ト

云城跡有

是ハ昔扁[○]不[○]ト云侍住居セシト也

其時代知者ナシ

此村ヨリ十四五町北

二下秋津村

見ユル

スヘノ秋津野村ト名所也

萬葉集 七

無名

岩くらのをのより秋津に立わたる 雲にしもあれや時雨をしまたん

名 寄

定 円

六月のころとも見へぬ草葉かな 秋津の里の道のつゆけさ

續千載 哀傷

法皇御製

●○さだめナラン（芝口）

人の世のならひをしれど秋津野に 朝ゐる雲のさへめなきかな

又秋津ヨリ三町程申ノ方ニ當テ城跡有

城ノ平ト云

城主不^レ知

同所ヨリ一町子

丑ノ方ニ雲森有 此杜ノ中ニ大明神ノ社有

此明神ハ昔天ヨリ降玉フ 故ニ雲杜ト

云也 土俗ノ説也 尤モ名所也 サレトモ松葉集其外諸書ニ 國不勘ニ入タリ

夫木集

知 家

村雨の今朝もゆきへの雲の森 いくたひ秋の梢そむらむ

◎中万呂村

高三百七十四石五升六合

棟數廿九軒内十三軒役家也

◎上万呂村

高三百八十二石一斗九升一合

棟數四十軒内十四軒役家也

此處ニ矢田

カ口ノ地藏岩ト云テ高七尺横一丈五尺ノ岩有 是ニ長二尺ノ地藏ノ像ヲ彫付タリ

昔弘法大師爪形ノ作也ト云傳ヘタリ 此在處ヨリ一里計北ニ上秋津村 彼^{カシコ}処ヨリ十

町程西ニ入國山有

●入國山？ ×入國山？

萬葉 七

見れとあかぬ人國山の木の葉をも おのか心のなつかしきおも

同村ヨリ二十町程申西ニ當リ

高地ノ古城トテ山城ノ跡有

城主不^レ知

同村ヨリ

七町程寅ノ方ニ當^{アタリ}岡島ノ古城ノ跡有 城主ハ昔上下両秋津ノ地頭塩崎三郎行久力居城也 時代末^レ勘 同村ヨリ三十町モ長ニアタリ鷹尾山ト云有^レ之 此山ノ中程二千光山ト云シ伽藍昔有^レ之ト力ヤ 諺ニ往昔百合若大臣 見ドリ丸ト云鷹ヲトブロフガ爲建立也ト力ヤ 天正年中ニ杉若越後守是ヲ破却セシニ依テ 慶長初ノ比彼寺ノ麓ニ引 古木ヲ以テ小寺一字取立 于^レ今千光寺ト号スト力ヤ 二十町^{子丑}ニ當リ鷹巢ト云城跡有 是ハ愛須三郎長俊ト云地土 上下秋津ノ地頭トシテ居城セシト云此城ヨリ六七町川端筋ニテ 天正ノ比湯川力勢ト一戦有シト云ル 三栖川幅十八間也

○近山ニ非ズヤ（芝）[○] 嘗ハ時ト讀

◎下三栖 高七百四十四石一斗五升四合 家数四十七軒内廿一軒役家也 海道ヨリ十間計南ニ五郎地藏ト云石佛ノ堂有^レ之 近曾[○]五郎ト云土民薪柴ヲ伐ムトテ山ニ行ニ常ニ此道ヲ往還スル度毎 時ノ草花ヲ手折テ彼地藏ニ奉ル事懈怠ナシ 或時五郎戲ニ此地蔵ニハ堂モナク雨露ニヲカサレ玉ヒ サソ本意ナクヲハシマス覽^ラントテ 仮初ニ柴ヲ以テ佛ノ頭ヲヲホイテ行スキヌ 彼五郎程ナク罪ヲ犯シテ牢舎シ 曉ニ斬ルベキニ極ル所ニ 地藏枕上ニ立玉ヒ 汝力命ヲ扶ヘシ 心安思フヘシト示シ玉フ事度々ニ及ブ 五郎ハ夢現トモナク返答スルコト繁シト 番人アヤシミテ故ヲ問フ爾々ト答フ 此事主人聞^{シカシカ}之不思議ノ思ヲナシ則命助シト力ヤ 其後人々奇異ノ事ニ思ヒ一字建立セシト云ヘリ 此村ヨリ六町己ノ方ニ當テ山城ノ跡有 是ヲ瀧口トモ云 是ハ百七十二三年モ以前ニ山本ト云地侍有^レ之 其子孫ニ岡村ノ地頭楠本六郎力居城ナリトモ云リ 然ニ六郎ハ三好ノ勢ト相戦時ニ 城内ニ攻入敵ノ雜兵七十人射倒シテ勝利ヲ得 此戦終テ後ハ山本力抱分也ト聞ヘ 又其後熊野ノ衆徒此城ヲ守シニ 天正十三年^{元禄ニマデ 百五年カ} 二藤堂與右衛門・青木勘兵衛由定^{後号ニ紀 伊守一}・宇野若狭守等當城ヲ攻シニ終ニ落城ス 夫ヨリ後此城廢セシト云リ 同村ヨリ七町余リ乾ニ

當リテ衣笠山ト云テ城跡有 城主不^レ知 同村ヨリ八町東ニ當テ城跡有テ高地山ト云是又城主不^レ知トナリ

◎上三栖村馬次也 高二百九十七石九升五合余 棟数三十三軒 傳馬八疋有^レ之 此在所ヨリ十四町余寅ノ方ニ當テ 峯城土山ト云城跡有 城主不^レ知 天正十三年ニ藤堂・宇野・青木等此所ニ陣城ヲ構ヘシトカヤ 三栖山ハ名所也 八王子ノ小社有^レ之 山家集二

●岡村二八上王子ノ小社有之トスベキ也

くま乃へまいり侍るに 八上王子の花おもしろかりければ社に書付ける

まちきつる八上の桜咲にけり あらくおろすな三栖の山風 西行

長尾坂上リ十六町 此峠ニ水口峠ノ茶屋トテ一軒有 塩見峠茶屋ニ軒有 此峠ヨリ海上ヲ望ミルニ 万境一望ノ内ニ有 此茶屋ヨリ下テ廣野坂ト云 廿二町有テねぢき坂 是ハ廣野坂ノ内ニ有 此坂ハ馬我野村ノ内也 在所ハ此坂ヨリ十三町南也 天正十三年藤堂・青木・宇野長尾坂ヨリ攻登 湯川直春力勢ヲ追拂シ古戦場ナリトイヘリ

◎芝村^{三番組内}馬次也 高二百四十一石余 棟数三十九軒 傳馬十三疋有^レ之 在所ノ入

口ニ鍛冶屋川有 此橋ヲのぞきの橋ト云 ハゞ一間長六間有^レ之 橋ノ下ニ大ナル岩有 是風情面白クシテ他ニ異也 天正十三年山本主膳此橋ヲ引テ上方勢ヲ防シトカヤ 在所ヨリ十町半南ニ當テ剣山ト云フ有 長^高廿町余也 此山ノ麓ニ瀧尻五鉢王子権現ノ社有^レ之 是ハ奥州ノ藤原秀衡力建立ノ由 其社今ハ大破シテ小社有 同山ノ中ニ長三間横二間ノ岩穴有 秀衡夫妻熊野参山ノ時 此窟ニテ出産ノ由云傳タリ今ニ秀衡ガ岩穴ト呼ナリ 二季ノ彼岸ニハ所ノ者 彼穴ニ詣トカ 昔ハ剣山熊野道ナリシトイヘリ

又石不利川 一本石伏川ト書誤也 里ノ名 ト云名所モ瀧尻王子ノホトリニ流ル川也 此瀧

尻本川出合迄五十町有ト云 石舟村ノ知毛谷ト云ヨリ流テ 真砂村・朝来組・富田

組ヲ經テ海ニ入ト云リ

みくまの、石ふり川のはやくより 願かひをみつの社なりけ里 忠 盛

又鍛冶屋川ノ上 三番組ノ内小野辻ト云所ニ古戦場有テ 小野村ヨリ八十四町余坤

二當ナリ 是ハ湯川直春天正十三年ニ四番組ノ内 近露村ヘ逃籠シ時 同年六月朔

日杉若越後守小野辻迄押寄せシニ 鍛冶屋川村ノ内小野・沢村ノ土民共出合 一戦

シテ上方勢ヲ追退セシ所ナリト云ヘリ

芝川在所前ニ有 幅十二間歩渡也 是ハ岩田川ノ水上也

○亀石坂廿二町 但上六町ハ嶮岨也

◎高原村 馬次也 高二百七十六石余 棟数四十九軒廿四軒ハ本役也 傳馬十二疋有

此所ハ名所ナリ

後鳥羽院熊野御幸瀧尻ノ王子ニテ和歌御会ニ峯月照松トイフ題ニテ

因幡守通方

たか原や峯より出づる月影は 千とせの松をてらすなりけしり

十丈坂

拾條坂王子ノ社有 之峠ニ民家有 是ヨリ一里餘ノ所ハ大木シゲリ 十丈坂峠カハシカ峠 王子ノ

社有 イツレモ深山ナリ 小川有 土橋長三間也

◎近露村 馬次也 高六百二石餘 棟数九十九軒内三十五軒本役家也 傳馬十二疋有

村ノ中ニ川有幅四十八間也 是ハ大辺路海道ノ安宅川ノ水上也 徒渡也 此村ニ横

矢六郎ト云地下人有 今大庄屋 渠力先祖ハ天正十三年湯川没落ノ時直春ニ頼マレ 己力在

所ヘ引入シ者ノ末孫也ト云リ 村外ニ楠山坂上下廿九町内十一町難所也 十八町ノ

間ハ山ノ腰ヲ行也 王子社有^レ之

◎野中村 馬次也 高四百十二石余 棟数五十五軒内二十六軒ハ本役家也 傳馬廿一

疋有 在所ハヅレニ王子ノ小禿有^{ホコラ} 此社ノ前二名木ノ接櫻有 古木ハ枯テナカリシ

ヲ 前君ノ嚴命ニテ換^{カハリ}ニ山桜ヲ植タリ 今大木トナレリ 接櫻ハ昔秀衡夫婦參山

ノ時 劍ノ山ノ窟ニテ出產ヲシ 其子ヲソコニ捨置參山ス 此所ニ至テ仮初二櫻ヲ

手折テ戲ニ曰 產所ノ子可^レ死ハ此櫻モ可^レ枯 神明佛陀ノ擁護有^レ之 若命アラハ

櫻モ枯マジト云フ 側ノ異木ニサシテ往還ス 下向道成ヲ此所ニ来リシニ 色香盛

ノ如シ 彼窟ニ行テ見ルニ 幼兒ハ狐狼ノ爲ニモ侵サレス 還テ服仕セラレテ肥太

レリ 夫婦喜テ奥州ニ俱シテ下リシト云傳ヘタリ 又少シ右手ハ谷ニ松四五本生ル

其側ニ野中ノ清水有 在所ノ用水トスル也 同並ニ^{モミジ}口ノ瀧有

□原文上ニ註シテ曰ク □ヲゼイ倭俗ヲモミヂトヨム 然ラバモミジノ瀧ナリトアリ

◎熊瀨川村 くませ坂上下十町 妻男坂相對シテ二有之 此方ノ坂ハ上下十町フモト

ニ幅二三間ノ谷川ナガル 夫ヨリ直ニ向フノ山ニ登ル 上下十八町也 峠ニ王子ノ

小社アリ スベテ此辺深山ニシテ大木生茂日ノ影ミヘズ 空ヨリ蛭降ルト云慣ハセ

リ 近年ハ老木伐拂テ道ヲ作ルニ依テ 今ハコレナシト云

岩上峠名所也 王子ノ小社有^{ホコラ}之

◎道湯川村 王子ノ小禿有^{ホコラ}之 三越峠名所也 茶屋有 □熊野・奥熊野ノ堺也

家 集

中宮亮仲実くまのへ参りけるにつかはしける 俊 頼

雲のゐるみこし岩上こえむ日は そふる心にかゝれとそおもふ

此峠ヨリ右手ニユケハ赤木越ト云 左右深谷ニシテ山ノ頂ヲ 一里半程行テ本宮・

湯峯ニ至ル也 是モ一騎ウチノ道ニシテ 馬足ノカヨヒシナシ 水一滴モナシ 本

道ヨリハ此道一里程チカク 見越村在家ハ弓手ノ腰ニ有 此在所ノ下ヲ往還スル也

是ヨリ發心門マテノ道筋ハ 左右ニ大木茂谷間ヲ往来スル也 カリ瀧水不_レ流シテ
其体瀧ニ似タリ故ニ云 余[○]力[○]此道ニ谷川多シ 長三間ノ板橋六ツ有_レ之 音無ノ瀧
ハ是ヨリ弓手ニ當ル也 此順道ヨリハ見ヘズ

發心門 是ハムカシノ門ノ跡也ト云ヘリ 杉ノ大木其外諸木茂シ 和州ニモ同名アリト云フ

千載集 神祇 權中納言經房

うれしくも神にちかひをしるへにて 心をおとす門にいりぬる

此峠に茶屋有

◎伏拜村 馬次也 高百五十四石余 棟数四十一軒内廿六軒本役家也 傳馬九疋有之

前二記スル 野中村ヨリ當村ノ間三里三十四町也 内くませ坂・妻夫坂^{所 両}・見越峠

・發心門右五ヶ所ノ間 一里廿二町ハ上下共ニ難所也 二里十二町ハ山ノ腰ヲ行ク
也 伏拜村ヨリ本宮マデハ左右ニ松有テ 往昔和泉式部熊野ニマウデントテ 此所
マデ詣リテ来リシニ 月水ノ恐アル力故ニ 此所ヨリ權現ヲ伏拜セシニ依テ 名ツ
クト云ヘリ 是ヨリ本宮ノ間一里一町山ノ腰ヲ往 下リ坂廿余町ハ石垣ニテ道ヨシ
先年水野雲州下知セラレシ故也ト云ヘリ 此道ヨリ權現山咸見ユル也

熊野獨參記 卷第二 終

平成十七（二〇〇五）年六月十三日『熊野獨參記』卷第二写本終了
『熊野獨參記』全体の1／2弱なり 卷三は本宮から田辺まで記されている

清水章博

平成十七（二〇〇五）年六月十三日

熊野獨參記 卷第三

◎本宮村 南北十町余有 馬次也 高四百二十石余也 棟數百七十軒有_レ之 此村ヲをとなしの里トイヘリ

夫木集

爲家

うきことをしはし聞へぬ時やあると いさ音なしのさとをたづねむ
又本宮・新宮・那智ヲ三熊野ト云ルト也

新古今集 神祇

大上天皇

岩にむす苔ふみならずみ熊野の 山のかひあるゆく末もかな

本宮ハ龜甲山大雲寺ト号ス 門四方ニ有 巽門・西門・東門・北門是也 東門ニハ大黒ノ像・役行者像有_レ之 北門ヲハ埋門ト云也

本社ハ巽二向ハセ給フ 崇神天皇六十一年_{一説十}二初テ御建立也ト云フ

六年

正一位本宮本社伊弉冉尊證誠殿ト号ス 阿弥陀

延喜式神名帳曰 熊野坐神社 名神大

本國神名帳曰 正一位家都御子大神

二宮 速玉男 藥師

神名帳曰 熊野速玉男神社大 本國神名帳曰 正一位御子速玉大神

三ノ宮 結宮 千手觀音

四ノ宮 聖宮 龍樹

五ノ宮 十禪師 地藏

六宮 若一王子 十一面

七宮 児宮 如意輪
八宮 子守宮 正観音

九宮 十万宮 普賢 米持金剛 毘沙門 飛行夜叉 不動
一万宮 文殊 勸請十五所 釋迦

本宮 神鏡三面

社家者曰 本宮十二社者

第一殿 國常立尊 第二殿 國狭槌尊

第三殿 豐斟滌尊 第四殿 泥土喜尊

第五殿 大戸之道尊 第六殿 面足尊

第七殿 伊弉諾尊 第八殿 天照太神

第九殿 正哉吾勝尊 第十殿 皇御孫尊

第十一殿 彦火々出見尊 第十二殿 鵜茅葺不合尊 云々

又曰 孝明天皇草ニ創本宮ニ云々 亦曰 崇神天皇六十一年草ニ創本宮ニ則神跡
三面神鏡云々

古今皇代國崇神天皇六十五年始建ニ熊野本宮ニ云々 後明者可レ訂レ之而已

右十二社ノ外ニ満山護法弥勒別殿一社

廻廊ハムカシハ百八十間在シトカヤ 今ハ其跡ハカリナリ 巽門ニハ大キ城釜有レ
之 往昔本宮建立ノ時ノ要用也ト云 今ハ手水入トセナリ 鐘楼モ昔ハ有シト云ヘ
リ 鐘ハ今北門ニ在リ 礼殿ハ十三間梁二十八間ノ棟桁ニシテ丸柱作也 柱数百二

本宮ノ鐘若山ノ鈴丸橋万精院ニアリ 鐘ハ慶長十九年三月三日ノ銘アリ 万精院ニ持来リシハ寛延元年ナルベシ 寛
延二年八月吉日萬精院ノ追名アリ (芝口) 詳シクハ東京考古学報第二冊「慶長以前ノ梵鐘」ニアリ

十九本也 内ニハ釈迦・文殊・普賢像作不有之 北殿ハ亜槐秀長卿ノ建立也ト云

々 本國神名帳四從四位上瀧姫神在ニ本宮戌亥音無之下云々

祓所王子天児屋屋命也地主ノ社ハ高倉下命也

於レ礼殿毎年正月六日ニ連歌有 本宮ノ社家又地下人トモ集テ興行ス 發句ハ本宮ノ神敕ニテ常發句ナリ 脇ハイツモ尾崎氏詠スト也 其發句

この山のあるじは花の木影かな

音無川ハ此音ナシノ里ノ脊ヲナカレテ 御社ノ西ヲトリ南ノ方熊野川ヘ落合也

音無川ノ橋ハ元和七年前君御再興也 長十二間也 其後洪水ニテ橋落タリ 今ハ仮

橋ナリ 金宝珠ハ今社壇ニ有レ之 此橋ヲ渡テ本社ヘ詣ル也

○銅ノ擬宝珠也

音無里ノ北ノ方ニヲホ山ト云山アリ 其形チイサク見シカクシテ瀧落ル 是ヲ音無

瀧ト云ヘリ 亦此音無川ノ水ワカレテ本宮ノ町中ニ流ル也 此川ニカヘリタル橋ヲ

囁橋ト云 音ナシ川サヘヤキ橋共ニ名所也

拾遺集 恋二

讀人不知

こひわひぬねをたになかむこゑたて、 いつこ成らむおとなしの瀧

同

元 輔

おとなしの河とそつひに流れいづる いはで物思ふ人のなみたは

名 寄

熊野なる音なし川にわたさばや さへやき橋のしのひくゝに

巽門前ニ舞台・樂屋有 毎年四月十五日能有レ之 又本社ノ後ニ音無天神アリ 同並ニ和泉式部力逆修ノ石塔 並如意宝珠ヲ納メタリト云同跡有 此地主者高倉下ノ神也 此社人毎月廿八日龍宮城ヨリ乙姫詣テ来ルト云ヒ慣ハセリ

又巽門ノ外ニ菴主居住セリ 是則御供所也 側ニ不動堂有 智證大師ノ作ト云 又此堂ニ本宮ノ神輿ヲハシマス 此堂ハ立花左近將監何某ノ建立ト云ヘリ 菴主力向ノ方ヲ七越ノ峯ト云也

山家集

西行

●原本きえて

立のほる月のあかりは雲はれ。 光かさぬる七こしのみね

此麓ニ從四位上海神社有レ之

本國神名帳曰 從四位上底海神

本宮在辰巳島
或曰備岩窟

社家相傳此水通ニ海潮一捨レ是祓淨身

聖護院・三宝院入山ノ時 大峯ヨリ此所マデ自笛ヲ掛玉ヒテ御出山ト云 此時闕^{アカ}加井ノ薬師ノ別當長床坊 白晝ニ松明ヲ燃シ御迎ニ出テ則笛ヲ爰ニシテ受取也 此マデ後鬼・前鬼モ送り奉ルト云 同並少川上袋谷・大黒谷・飯盛山・不動堂・文殊屋敷・吹越行者堂・立島ノ瀨・立島ナド云旧跡有レ之 此立島岩ヘハ龍燈上ルト云慣セリ 往昔弘法大師大黒谷ヨリ飯盛山ヲナカメヤリ一首ノ狂歌アリ

大黒のうしろにおへる袋堂 まへにそなふる飯盛のやま

●うちふる？（芝）

菴主ハ什物ニ龍宮笛ト云有 ソノカミ旱魃セシニ雨乞爲ニ立島ノ瀨ニ行テ囃子ヲ興行セシニ 誤テ笛ヲ水中ニ落ス 角常使ト云者其マ、水底ニ入尋ネミルニ 龍宮城ト思敷ク金銀珠玉ヲ飾リタル床ノ上ニ彼笛有 則取返シテ来リシト云傳タリ 角常使ハ少時ト思ヒシカトモ三年過テ十三里川下池[○]辺村ト云所ヘ出タリト云ヘリ 今ニ至テ雨乞ニハ此所ニテ囃子ヲスル也 又本宮ヨリ湯峯ハ南ニ當ル 行程廿八町也 道ニ筋有 小栗力車道ト云ハ本宮ノ札辻ヨリ左ニ行也 又影向道^{大日越共}ト云有

是ハ常ニ往来セズ 往昔権現此土ヘ天降玉ヒシ御時 始テ湯峯ヘ此道ヲ臨光アリシト也云々 今社人モ此道常ニハ往還セス 湯垢離ノ時正月六日・四月十六日此兩日

ハカリ往来スト云 此道二關加井ノ薬師有于レ前本尊弘法ノ作 側ニアカ井ノ靈水
有 峠ヨリコナタニ金佛ノ毘沙門有 峠ノ下二洞アリ石佛ノ大日有 但大佛也 峠
ヲ越テ鼻欠地藏 弘法ノ作トテ石佛二体有 昔藤沢上人熊野権現ノ神社ニテ参山ノ
時 此道ヲ通ラレケルニ 道ノ側ニ癩病ニ行逢 上人之ヲ痛ハリ温泉入湯サセシニ
立所二本服スル 是俚俗ニ云小栗ナラント サレドモ小栗ハ相州鎌倉基氏時代ノ人
也 亦藤澤清淨宮寺開山一遍上人 智信坊随録ハ 豫州道後ノ城主河野七郎道廣力
子小字松壽丸 弘安元戌寅年始テ上人号ヲ敕許有 是ヲ思ヘハ遙ニ星霜違ヘタリ
又偽説成ヘシ 彼ノ病者ノ居ノ跡トテ児塚ト云 于レ今有レ之 並ニ役行者ノ笛掛石
・天狗休石ナド有 此道常ニ往来ナキ故草木茂リテ道惡シ 小栗ガ車道ト云フハ左
右ニ並木ノ松有 少シツヽ上リサガリノ道也 中程ニ車塚有 側ニ不レ蒔稻ノ田地
アリ 種マカスシテ毎年稻生ト云 是ハ昔小栗入湯ノ時ニ 髪ヲ結シ藁ヲスラシニ
不思議稻生ス 取レ之薬師ノ供物ニセシト也 於レ今如レ斯 湯峯入口ノ左ノ方ノ上
ニ 一遍上人ノ筆ヲ以テ六字名号 並六十万人決定往生ノ四句ノ文ヲ書テ 彫刻セ
ラレシ大岩有レ之

◎湯峯 在所ハイツレモカケ作也 高本ノ棟数二十軒餘板囲也 薬師堂ハ南ヘ向五間

四面也 秀吉公ノ御建立也 馬手メテノ傍ニ薬王山東光寺ト云有レ之 真言宗也 此薬
師ハ金・木・土・石ヲハナレテ温泉ノ淡アハ也ト云 其色ハ黒シ座像也 長臺座・御光
共ニ八尺余 作不レ知也 地ヨリ涌出セリ 何レノ代ニ出現スト云事不レ知 御光ノ
内ニモ佛像二体マシマス 昔ハ薬師ノ胸ノ間ヨリ温泉涌出ルト云ヘリ 至レ于レ今胸
ノ間ニ亦一ツ 御光ノ内ニモニヶ所孔有レ之 左右ノ脇立日光・月光也 同厨子ノ
内ニ十二神 木像彩
色也有レ之 是ハ當寺住持 号ニ円
證一再興スト 同並ニ伊弉冉尊ノ新祭ノ小

社有^レ之 是ハ本宮垂跡ヨリ以前ノ鎮座也 故ニ此宮ヲ眞熊野ト云名所也 古歌末^レ

勸 同並ニ石ノ櫃ニ不動像彫付有^レ之 東光寺ノ内ニ地藏木佛 弘法作・觀音木佛 春日作也・毘沙

門唐作像^レ之 同並ニ二重ノ塔アリ 飛驒ノ工力造立ト云 本尊釋迦・文殊・普賢何

レモ木佛也 定朝力作ト云 堂ノ四面板ニシテ眞言八祖ノ画像筆者不明有^レ之 堂ハ三

間四面本尊ハ東向也 同並ニ石ノ宝塔ニ基有^レ之 前君御尋有シ力共知人ナシ 俗

云 若ハ小栗カト云々 同並ニ觀音像・地藏堂ト云テニヶ所有^レ之 何レノ代ニカ

破壊シテ今ハ堂ナシ 其跡計也 本尊ハ今東光寺ニ安座セリ 右觀音堂ノ近一町ノ

山 寛文中ニ大風雨ニテ崩レ 人屋少々轉倒シテ男女旅人等死ス 其跡ヨリ石佛

ノ地藏六体出ル 今藥師堂ニ有^レ之 藥師開帳鳥目 百二十文也 當所ニ温泉四坪在 二坪ハ彼堂ヨリ

左ノ方ニシテ谷川ノホトリノ大岩ヨリ湧出ル 其高キコトニ丈余モ吹上ルト云

是ヲ筧ニテ二坪ヘ取テ 一坪ハ在所ノ雜人男女入込也 一坪ハ男ノ湯ト云 順禮又

ハ熊野ノ參詣ノ者計入湯スト云 取分此湯口ハ陽氣太強クテ 其辺深霧ノコトシ

空曇時ハ猶甚敷 近キワタリモ見ヘ兼ル也 此湯口ニテ食物ヲ湯煮シテ食^レ之 或

湯口ニテ粥ヲ煮テ食スレハ ツカヘ不食スル者ニヨシト云ヘリ 米ヲ布ニ包テ暫ク

湯口ニ置ハ飯ト成 獨活・蕨ナドヲ籠ニ入置瞬時ニ煮ト云 又二坪ハ東光寺ノ庭ノ

内東ノ方岩ノハサマヨリ湧出 是又筧ヲ以テ取ル 上ノ湯ト云ハ不斷留湯ニシテ

諸士並本宮社家共ニ湯垢離ノ時ニ入ナリ 其外ノ者ハ不^レ入也 其次ノ湯ハ女ノ湯

ト云 女ハカリヲ入ル也 此二坪ハ湯口ノ際ヨリ谷水流ル 是ヲ筧ニテ取テ加減ス

ル也 統[○]テ當所ノ湯ハ冷湯ニシテ中風・脚氣・筋氣ニ良 頭痛其外痛所ヲ瀧ニテ打

○統テ スベテトヨムカ(芝)

●中風 動脈硬化症(芝口)

スニ 日ヲヘスシテ本服スト云 此湯ニ入ルニ日厄トテ毎月朔・七日・十日・十五日・廿日・廿八日・晦日コノ六日子丑ノ兩刻カタク入湯ヲ慎也

○水路九里八町トイフナリ ○原本小口ヲ河口トセリ誤ナルベシ ○茶屋ハ松島ト云處ナリ

那智山ハ本宮ヨリハ辰ノ方ニ當レリ 陸道法九里八町有レ之 雲取越ト是ヲ云 此道難処ナル故 大略順礼ナラデハ通ラズ 本宮ヨリ四里半ホド行テ小口村ト云有 此所ノ川水出ル時ハ渡船有レ之 船賃不定也 亦曰 本宮ヨリ半里程熊野川ノ耳ヲ行テ請川有 ソレヨリ小雲取ト云 夫ヲ一里アカリテ茶屋有 是ヨリ小口村ニ至ル 此村ヨリ那智ノ間ヲ大雲取ト云 小口村ヨリ大山村ノ西ヲ通りテ舟見峠ヲ越 夫ヨリ那智山ニ至ル也 本宮ヨリ新宮ヘノ下船其程八里也 船一艘ニ水主三人乗也 登舟ハ二日也 下船一日ニツク也 下船一艘ノ船賃銀子十二匁也 乗合ハ銀子三匁ヅヘ也 乗懸ハ二匁一駄荷ハ三匁ヅヘ也 乗場ハ菴主ト尾崎ノ間ヨリ乗レ之 此所ハ音無川・岩田川・熊野川三川ノ流一ツニ落合 故ニ巴力湍ト云 此川惣名ハ熊野川

新古今 神祇

太上天皇

熊野川くたすはやせのみなれ棹 さすかみなれぬなみのかよひち ●網代湍ナリ 是ヨリ少シ下リテ右手ニ露島 大日ノ森少シ下リテアチロナコ乗ト云フ所有 少シクタリテ弓手ニ 権現ノ折敷岩水底ニ見ユ 夫ヨリ少シ下リ請川村船次也 夫ヨリ左手ニ鷹山村 夫ヨリ三里下リ小津荷村有 少シ下リテ右手ニ東敷屋村 左手ニ

○今ハ高山トイウ 三里ハ恐ラク一里ナラン ●紙漣小津村也

屋村アリ舟次也 此所ニテ紙ヲ漣諸方ヘ賣買ス 左ノ手ニ万峯坂見ユ大山ナリ 上西敷下一里半有ト云 夫ヨリ少シ下テ美毛登村 和氣村ノ内 同所ニミモトノ明神有レ之 力猶可尋レ之

美無登村ハ和氣ノ方也 次歌モ後ニ轉ズベキナリ

後白河院熊野御幸三十三度ニナリケル時 美モトヘイフ所ニテ告申サセ玉ヒタル歌

風雅集 神祇

うろよりもむろに入ぬる道なれば 是そほとけのみもとなるべき

◎川合村 舟次也 居石島 三山御建立ノ時ハ石ヲ切出ス所ト云 北山川ト云テ和州ヨリ流ル川左ニ有レ之 本宮川ト落合也 是ヨリ少シ下リテ志子村 左手ニ同並ニ小口川原アリ 共ニ名所ナリ ○志古ハ下川ニハ右手ナリ ○小口川原ハ小雲取ノ下小口村ニアリ

山家集

西行

雲とりや志この山路さておきて こくち川原のさびしからぬか

此處ニ舟渡シ有 新宮へ馬ヲ率行時ハ此渡ヲ乗テ入鹿越ト云ヲ行ト也 然共一里ホト道遠シ 木本村へ行ニモ此道順道ナリト云 志子村ヲ少下リテ撞木山有 此處ヨリ本宮ノ鐘ノシュモクヲ伐出スト也 夫ヨリ楊枝村 此所ニ淨樂寺有 往昔京洛三十三間堂ノ棟木ヲ伐出セシトカヤ 是柳ノ木ニテ有シトヤ 少シ川下ニ権現ノ絹卷

●撞木山ハ志古ヨリハ上ナリ絹卷石ノ辺ナリ ●絹卷石ハ川合ノ上ナリ ●楊枝ハ志古ノ前ナリ 楊枝ノコト紀伊讀風土記八百七十三ニ有

△京三十三間堂棟木ノ由来ニツイテハ明治四十二年頃『日本及日本人』ニ詳記アリ 其ノ但馬ニオケル傳説ト紀州トノ真実性ヲ検討シタル也 (片山隆三)

石長八間有 藪ノ中ヨリ川耳マデ出タリ 少シ下ニかいもち石有 少下右手ニ釜石アリ 此所ノ川中ニ中島ト云有レ之大岩也 此岩ノ左右ヲ舟往来ス 少川下ニ左手ニ當テ白糸ノ瀧アリ 少下リテ川ノ真中ニ蛇ノ和多ト云テサマシキ大瀧アリ 是ヨリ川下ル 日足村・熊城村共ニ右手ニ有 舟次也 同方ニ布引ノ瀧アリ 夫ヨリ川下タニ三重ノ瀧有 少川下右手ニ田長村有 此在所へ渡舟有レ之 少川下ニ和氣村有 此所ニ犬戾・猿滑・左壺・天地帰ト云難所有 是ハ本宮ヨリ新宮へ行陸ノ順

△△天地帰 傳地返の誤りなる 往昔傳川文の通送と新宮仕立の通送との交換引き返す処なりと覺ゆ 三十三軒棟木の由来に「でんじかへりや楊枝村」とある之れなるへし (片山記)

道ニ有 少川下左手ニ火鉢森ト云有 少川下右手ニ當テ骨石・左ニ包丁岩・眞那箸

石 少川下ニ飛雪ノ瀧ト云有 右手ニ机石少川下左手ニ碁盤岩有^レ之 左手ニ此類
島有 少下リテ右手ニ見上嶋有 夫ヨリ一里余下リテ淺利村有 舟次也 同所ノ川
耳ニ味噌豆ト云難處有 石荒上下ノ舟大事ト 次少川下ニ座禪岩アリ 弘法大師座
禪セラレシ所ト云 少下リテ左手ニ屏風岩ト云有 遠クミレバ畫カキタルカコトク
近クテハ見ヘス 夫レヨリ川下右手ヘ鳳凰岩有^レ之 此處ヨリ一里余下リテ川耳^{ハタ}
ニ比丘尼倒・後子抛ト云フ 但ニヶ處共ニ淺利村 難所有^レ之 是又陸ノ順道ニ有 少川
下ニ御舟嶋有

藻塩草

少將内侍

○比丘尼倒シハ朝里ヨリ上也

三熊野のうらはにみゆる御舟島 神のみゆきにこきめくるなり
少下リテ檜杖村有 舟次也 又左手ニ往昔西塔ノ武蔵坊弁慶ガ植タリト云楠ノ大木
有^レ之 高三十間余・太サ九抱有ト 少川下ニをと村 舟渡有 右手ノ山ニ神倉
山ニツベキテ嶮岨成ル岩山也 是ヨリ川下ヲ数遍メクリテ新宮ニ着船スル也

●弁慶ノ楠ハ鮎田村ニアリタリ ●水傳磯ハ海岸ニアリ

統テ此川長ニ鯉不^レ生ト云 鮎ハ多シ其長尺餘有ト也 此川水ヲ水傳磯ト云 土俗
ハ水ツキノ磯ト云 惣ジテ熊野川ノ名所ヲ叙スルニ前後シ混乱シタル所多シ

万葉 二

舍人等

水傳の磯のうらはの岩つゝじ もえさくみちを又ふみけんかも
世俗ニ曰ク 新宮ノ浦ニテ勢州大湊ノ物語ヲセス 忽川口フサカリ舟ノ出入留ト也
必可^レ慎ト云々

◎新宮ノ本社ハ巽ニ向ハセ給フ 竹林山金剛寺ト号ス 景行天皇五十八年始テ御建立
也ト云々

本社正一位 速玉男 薬師

神名帳曰 熊野速玉男神社 大日本國神名帳云 正一位御子速玉男大神

古今皇代圖曰 崇神天皇六十五年始建熊野本宮 景行天皇五十八年建熊

野新宮 此時遷祭手有馬村ヨリ本宮

二ノ宮 伊弉冉尊 阿弥陀

神名帳曰 熊野坐神社 名神大 本國神名帳曰 正一位家都御子大神

三ノ宮 結宮 千手觀音

四ノ宮 聖宮 龍樹

五ノ宮 十禪師 地藏

六ノ宮 若一王寺 十一面

七ノ宮 児宮 如意輪

八ノ宮 子守 正觀音

九ノ宮 十萬宮 普賢 米持金剛 毘沙門 飛行夜叉

一萬宮

勸請十五所 不動 釈迦

社家者曰 新宮十二社者天神七代地神五代神云シ 此等之諸說雖區々也

莫敢信之偶依其社十二坐數而爲附会决焉今按大四社者伊弉冉・速玉・

事解・天照太神也

小二社者者八局者宝殿也 故今猶御衣劍矛等在焉 以上南紀神社錄說

拜殿有之弁才天小社有

巽門前二大成釜有之 往昔新宮造立ノ時ノ要門也ト云 今ハ手水入トナセリ 此
門二後世車ト云有 參詣ノ輩施ス也 由緒ハ不分明ト也 宝冠阿弥陀本像也

春日ノ作ト也 半身並腰ヨリ下朽タリ 本社ノ後ニ四方正面ノ堂有^レ之 内陣ニハ六角堂有 是ハ一切經藏也 經數七千部奉納有ト云 參詣ノ貴賤・僧俗・男女此堂ヲ旋ル 世俗ニ是ヲ旋ラハ一切經轉讀ノ功德有ト云リ

巽門前ニ菴主居住ス 是即御供所也 宝物如^レ左

役行者所持ノ鈴 同錫杖 画像ノ釈迦・文殊・普賢是ハ洛陽東福寺ノ兆殿司力

筆也ト云 木像ノ阿弥陀惠心力作ト云 木像ノ大黒弘法ノ作ト云 法華經一部弘

法ノ筆也 中將姫ノ曼陀羅ノ寫 駒ノ角 天狗ノ爪 牛ノ玉

右靈佛等虫干ノ時諸人之ヲ見ル 常ハ見ル事成力タシト云

新宮城ハ其古ハ堀内安房守氏吉

元名新
次郎

居ス 夫ヨリ五里下有馬ト云所ニ 堀内相同

キ有馬和泉守ト云侍有シ 氏吉初其養子ト成テ 後ハ有馬新宮ニ家督ヲ合セ保チタ

○原本
太田原

リ領所ハ牟婁郡下[○]田原ト云フ所ヨリ勢州堺錦浦マテ有タル 今検地六万石計知行

セシ也 然ル所ニ天正三年正月伊勢國司具房 志摩國ヲ征シテ長島城ヲ加藤甚五郎

ト云家人ニ遣ス 志州英虞郡脇島諸島ハ伊勢國司代々知行タリ 二鬼島ノ相州ヲ限

リトス 然ニ永祿十二年以後氏吉武運逞シテ 既ニ熊野ヨリ脇島ヲ押領セントス

志州ノ住民ニ赤羽新之丞ト云者富者也 國司ニ申テ大將ヲ請テ新宮ヲ討タントス

是ニ依テ國司ヨリ志州長島ヲ 加藤甚五郎ニ與テ新宮ヲ推[○]ル也 彼甚五郎ハ元來國

司具房力同朋仙阿弥トテ 加藤治郎左衛門ト云者ノ子也 甚五郎則長島ノ城ニ移リ

ケレバ 如^レ旧三鬼ノ城ニ至ルマテ是ニ從フ 其後氏吉兵ヲ發シテ先三鬼城ヲ攻取

テ 尾鷲七郷ヲ平グ 尾鷲ノ一族庄司・世古・中・北村等氏吉ニ從フ 其外九鬼・

鬼元等マデ從テ又氏吉長島城ヲ攻ル 伊勢アマタ爰ニ加勢ス 新宮ノ勢大軍ニシテ

山海両方ヨリ攻寄ル 是ニ依テ赤羽心替シテ同年四月志州長島城没落ス 數月雖ニ

防戰ニ寄手強威ニシテ終ニ落城セリ 氏吉錦浦ニ至マテ攻取 同廿七日氏吉錦奥助

・同十四郎ヲ討ト云ヘリ 是ヨリ錦浦ヨリ西ヲ以熊野領ト成ト云々 氏吉ハ後二瀧川左近將監一益ヲシテ信長公ヘ降スト也 其後天正十三年秀吉公當國御進發ノ際御味方ニ参ニ依テ所領相違ナカリシニ 後関ヶ原悖乱ノ刻石田三成ニ與党セシ 御咎ニ依テ御改易ナリシ 後當國ヲハ関ヶ原軍攻ノ賞トシテ 浅野左京太夫幸長二下

賜 此時紀州一國高廿七万石也慶長年中幸長于私檢地而爲三十七万石也 外二万石高野山寺領有之也

依レ之改テ紀伊守ト号ス 幸長入国ノ

始 長臣浅野右近太夫二當城ヲ遣セリ 元和年中長晟ノ代ニ 勢州ヲ拜領シテ長

晟ハ廣島ニ移城セラル 當國ハ前君御相受有レ之 彼城ヲハ水野出雲守重央

法名日山常春

二被ニ願下一 卒去ノ後息淡路守重吉家督 今土佐守重上相續テ居城也 郭ノ内外二

與力 十二騎知行ハ高下有之

・諸士ノ屋敷有 町屋ハ東西五六町・南北十一二町有 旅人ハ馬町

ト云ニ宿セリ 船ヨリ驤^{アガリ}テ一二町行ハ名物ノ氣イ^{（花井）}・紙子・天狗燧並矢根等ヲ常拵

商賣スル也

熊野新宮ニテ

玉葉集 神祇

あまくだる神やねかひをみつ塩の みなとにちかき千本のかたそぎ

新宮城ヨリ坤二當テ飛鳥ノ社有 本地ハ大威徳明王也 速玉男地主神社高倉下ノ命

也 社家祖神

泉道守神社^{在宮戸}

同並ニ孝靈天皇六年ニ 大唐来朝セシ徐福ト云ル仙人ノ小

社有レ之 社内ニ鷄多シ 城ヨリ爰マテ數ノ側ヲ通テ町續也 毎年九月十五日祭礼

也 其時内陣ヨリ口結ヒタル錦ノ袋ヲ取出シ 其俣馬二乗テ神事ヲ勤ム 年ニ依リ

彼袋大ニナル事モ有 小クナル事モ有 或重成輕成事有ト云リ 新宮権現ノ祭礼モ

九月十五六両日也 十五日ハ右ニ記ス御舟島ヘ神輿ヲ舟二ノセ奉リ 島ヲ三遍旋ル

也 其間ハ飛鳥ノ宮ヨリ出シ奉リシ錦ノ袋ヲ 権現ノ宮殿ニ安座シ奉ルト也 新宮ノ川口塞テ舟ノ出入ナラザル事タビク有 此時ハあすかノ神前ニテ御湯ヲアケ御供ナト備レハ 忽白狐現レ食^レ之 其時船ノ出入自在也 大切ノ病人有^レ之時モ 此神前ニ供物ヲ備ルニ 本復スヘキヲハ白狐是ヲ食 本復ナキハ不^レ食云々 飛鳥ヨリ神倉山ヘ道筋左手ノ田中ニ徐福力塚有 同傍ニハス[○]エノ橋有 是旧蹟也ト云 世[○]大木ハ俗徐福塚ヲタマノ木ト云リ大木アリ 少シ行テ道耳^{ハタ}左手ニ 横五六間長十間程ノ芝原有^レ之 爰ニテ七八両月山伏トモ集テ 柴燈・護摩ナト執行スルト アスカヨリ楠也

神倉山ノ麓マテ道法十二町程有 尤モ田畠ノ際ヲ順道トス

◎神倉山 高倉下命天劔ヲ得ル所也云々 麓ノ仮橋長十間也 是ヲ渡リテ唐力子ノ華

表ニ至ル 額有^レ之 文曰 日本第一熊野三山大権現トアリ 左手ノ側ニ聖トテ山

伏・比丘尼ノ居住スル寺有 峠マデ三町也 其道成石段也 右ノ華表ヨリ一町程上

リテ 右手二千体地藏アリ 中尊ハ弘法作ト云 イツレモ木佛也 此堂ニテ牛王^{△ゴオウヤ}矢

避火^{ヨケヒ}臥等ノ守 並大黒ノ像・順礼歌ナト比丘尼ノ商賣也 同左手ニ深谷ノ中ニ生大

△原本牛王ノ下矢避欠 臥トアリ

黒ト世ニ云慣セル堂有^レ之 本尊ノ開帳終ニナシ 御供ヲ備フルニ内陣ニ手ヲ入ル

程ノ孔有^レ之 夫ヨリ手ヲ入大黒ヲ搜スニ 常人ノ肌ノ如ク暖ナリト云リ作不^レ知也

右千躰佛堂ヨリ又一町程上リテ道耳ニ 餓鬼ノ水ト云ル清水有 此所ノ谷ヲ地獄谷

ト云 少シ上リテ闕伽井有 寛ヲ以テ取^レ之 本堂ハ五間二七間也 往昔飛驒ノ工

ガ造立トイヘリ 本尊ハ愛染明王・不動明王・十一面觀音也 但不動ハ磐石ニシテ

二佛ノ中ニ有 三躰ナカラ作不^レ知也 此堂ハ掛作ニシテ東向也 本堂ノ上方ニ池

有 不斷注連^{シメ}ヲ引也 此池ハ入鹿村ノ池ト一ツ也ト云ナラハセリ 由緒不^レ知 入

鹿村 往昔有 鍛冶屋 へ行程九里余也 神倉山ハ魔所也ト云リ 故ニ常ニ申[○]刻ヨリ以後人カヨ

○○申刻ハ大方今ノ四時頃ナリ 昔ハ日ノ長短ニヨツテ時モ伸縮セルナリ 年中暮ハ六ツ也申ハ七ツ也

ハズ 毎年正月六日ノ夜暮時ヨリ参詣ノ貴賤 精進潔齋シテ手ニ松明ヲトモシ詣也
其夜此堂ニシテ行有 下向ニ彼松明ヲ堂ノ内ニ残ラスナケ入テ下ル也 早ククダリ
●松明ハ堂ニ投入ルニアラズ 點火シテ一旦堂内ニ入り 扉開ケレバ持チ乍ラ山ヲ下リ前後ヲ爭フ也
タル人其年ノ吉兆也トテ人爭テ走下ル也 此夜ハ男子ハカリ詣ル也 祭礼ハ恒例五
月十八日・六月十八日兩度也 神倉山名所也

續古今 神祇

入道前太政大臣

みくまの、神倉山の石たゝみ のほりはてゝも猶いのるかな

又新宮ヨリ有馬村ヘハ順道ヨリ右手ニ行也 小キ山ヲ通ルニ左手ニ谷三昧也 有馬
村ニモ神社ヲハシマス 産田宮トモ世俗ニ大般若トモ云ヘリ

◎有馬村

今日 池辺 産田大明神 産田神社者レ葬ニ伊弉冊ニ所也

日本紀曰 伊弉冉尊生ニ火神ニ時被レ灼而神退去故葬ニ於紀伊國熊野之有馬村ニ
焉 土俗祭ニ此神之魂ニ者花時以レ華祭亦用ニ鼓吹幡旗ニ歌舞而祭矣

旧事記曰 伊弉冉尊者葬下出雲國與ニ伯耆國ニ堺比婆之山上也

日本紀曰 問古事記曰 伊弉邪美尊者葬出雲國與伯岐國堺比婆之山也 而今

此云レ葬ニ之紀伊國ニ何某背乎 答曰 神道不レ測未レ知ニ其関ニ所レ聞各異所レ注

亦異是猶ニ茶帝之塚所々不レ定云々

花窟亦此所ニ有レ之 是則伊弉冉尊葬奉リシ所ナリ云々 大ナル岩山ニシテ産田宮
ヨリハ其北也

夫木集

讀人不知

春風に梢さき行紀の國や 有馬の村に神祭りせよ

盧主

花の窟にて天人のをりて供養し奉るを思ひて 増基法師
あまつ人いはほをなつる袂にや 法のちりをはうち拂ふらん

◎三輪崎村・佐野村 佐野ハ順道ヨリ右脇 両村高千六百六十三石五斗八升也 棟数三百廿軒 三

輪崎村ノ中ニ王子ノ小社有

萬葉 七

三輪かさきあら磯も見へす浪たちぬ いつこより行かんよき道ハなし
建仁ノ比 後鳥羽院熊野御幸ノトキ道ノホトリノ歌ノ中 ウチ

拾遺愚草 羈中霞

前中納言定家卿

原本題ノミアリテ哥ヲ欠今補レ之

冬の日を霞ふりはへ朝たては 波に波こす佐野の松原

當村ニ大明神ニ座 八幡宮・岡明神・妙見ニ坐・恵比壽・稻荷ノ社有レ之 弓手ノ
方海辺ニシテ島々ミル 少シ先ニ往テ大ナル岩穴ヲ順道ニシテ往還ス 世俗ニ是
ヲ胎内潜ト云 浪アラキ所ナガラナルガ故ニ浪間ヲ考ヘテ往来ス 此濱ヲ御手水濱
ト云 小キ山ヲアガリ中ニ谷川流テ淵有 ムカシ此所ニシテ律僧身ヲ投タリト云
則葬リシ所也ト云フ 右脇ニ石塔アリ海上ニ孔子島・鈴島ト云ニ島相對セリ 此所
ニモ王子ノ小社有旧跡ト云 順道ハ濱辺ナリ松原有 此間ニ王子ノ小社アリテ濱ノ
方ノ岩山ニ便松 同山上ニ大夫松ト云テ名木アリ 此濱ヲハ秋津野ト云ヘリ

△大夫松ハ宇久井・秋津野ハ佐野也 混ス

名 寄

惠重法師

藻苅舟秋津ノはまにさほさして おもふつまとちこきつゝぞ行
此濱ニ黒石多シ 此間ニ少ツゝ上リサカリノ小坂有

◎宇久井村 高八十六石余也 在所ノ内ニモ王子ノ小社 氏神明神有レ之 此濱ニモ

碁石多シ 側二目覺山ト云テ権現ノ旧跡有 赤色ノ濱ト云也」大津坂上下四町・小

○赤色ノ濱ハ狗子ノ川也 小串坂ヲ過ルノ濱也

串坂上下二町有 此辺ノ濱ヲ白菊ノ濱ト云 岸根ニ野菊多シ 新宮ヨリ宇久井マデ
ノ濱惣名ヲ七里御濱ト云 何レモ砂濱道ニ小坂有レ之 此アタリヲ鳴那濱ト云也
錦濱共云 ○七里濱ハ木ノ本三輪崎間也 宇久井ニアラズ △鳴那濱ハ濱ノ宮アタリ也

懷中抄

讀者不知

なくさまぬ名をたつ人はよとゝもに 音をそなくやのはまのまにく

◎濱宮村

馬次也 高二百五十石余 棟数五十軒有 右手ノ森ノ中ニ補陀洛寺有真言

宗也 此寺ハ南方無垢世界ニ相對ト云リ 住持末期ニ及時海上ニ見ヘ渡ル 綱切島

ヘ舟ニ乘行テ息絶ルト即海底ヘ沈葬スト云 此寺ニ觀音堂有ワラフキ也 同並ニ若

一王子ノ小社有 村民云 錦浦大明神ハ伊豆箱根権現也 濱ノ宮ノ一名錦浦トイフ

寺ノ前ニ白河院法皇ノ御陵ト云テ小キ社有 同側ニ玉石ト号シカ^{テカラタメシ} 様ノ石ニツ有レ

之 此寺ノ向ニ當テ山也 島ト云有 昔内大臣平重盛^{号小松殿 法名淨蓮} 嫡男正二位右近衛中

將兼伊豫守平維盛卿此處ニ於テ入水セラレシ云 同墓所有レ之 卒去ノ後神ニ祀テ

維盛宮ト云 今ニ至テ大野村ニモ社有レ之 元暦元年三月下旬濱ノ宮ノ中ニ於テ入

海テ時廿七歳也 村民力云維盛卿熊野參詣ノ後 海ニ入ルト号シテ色川ト云所ニ隱

ル 村民是ヲ憐ミテニ奉仕ト 于レ今其社不レ廢 或曰 祭レ之ト云 此所ニ至ニテ今

「維盛ノ苗裔有レ之云々 一説曰 維盛卿熊野參詣ノ後 在田郡上湯川ニ蟄居セラル

今小松弥助ト号スルハ彼末葉ナリトモ云リ 右濱宮ヲ哭澤森共渚森共云ト一説有

或書曰 むろの郡那智ノホトリ濱宮ト云 此宮ヲ哭沢森トモ可レ謂歟 井蛙抄ニ哭

津森ト共ニ紀伊國也 若同一所カト云々 故ニ共ニ出ス哭津ト有テナギサノ杜ト

仮名ノ誤歟一決シガタシ 但藻塩草ノ説ニヨリ渚ノ森ハ那智ノ濱ナルヘシ 哭津ノ

杜覺書ナシ此事知人ナシト 若亦濱ノ宮ハなき^xさハめ^xナラハサモ有ナシ 此事知人ナシト云々 ^x泣澤女命

万葉 二

人 丸

哭沢の森に身はすはいかれども 我大君はたかひしられず

續古今 五

村しくれいく入そめてわたつみの 渚の森のいろにいつらむ ● 出? (芝)

◎井関村・市野村 両村共二王子ノ小社有 坂ニヶ所上下三町宛有^レ之 市野村ノ入

口二千代ノ井ト云名水有^レ之

◎二瀬村 在所ノ中程右手ニ若一王子ノ小禿有 此辺ニ木魂ノ宮ト云小社有 神前ニ

小キ流川有^レ之

◎那智山麓ノ下馬橋長サ十間 此川上ハ瀧也 是ヨリ二町程上リテ右手ノ奥山ニ 那

智ノ瀧見エル 是ヨリ四五町直ニ上リテ二王門ニ至ル 瀧本ヘハ右手ノ方ニ道有

順道ヨリハ弓手ニ三昧有 石塔ナト多シ 亦大木ノ杉多シ 深山ノ中トホリ順道也

同並ニ亀山院ノ御陵有 一率都婆ニ曰 經仁尊靈ト云々 那智権現並礼所家上一番

●亀山院御陵ハナシ率都婆ナリ 經仁ハ恒仁ナリ ●教化ノ字ハ他書ヨリ補フ

観音堂ヘハ二王門ヨリ直ニアカリテヨシ 下馬ヨリ神前マテ石段ナリ 順礼一番ノ

観音ハ閻浮檀^{エンブゴ}金ノ尊容ニシテ如意輪也ト云リ 昔教化ト云人なちの二ノ瀧壺ヨリ祈

上奉ルトカヤ 則如意輪ノ瀧ト云ト 又此瀧ノ形少傾キテ観音ノ尊像ニ似タリ 故

二号共云 出現ノ時ヲ不^レ知也

那智にて菴のはしらに書付ける 大僧正 行尊

おもひきや草のいほりの露けさを つゐのすみかとのむへしとは

菴主ノ寺ニテ観音ノ影像ヲ沽^{ウル}也 札所ノ観音堂ヨリ瀧見堂マデ道法五町二十間有ト

イフ 本尊ハ千手観音也 札所ノ観音堂ヨリ瀧ハ^左右手ニミユル 此瀧ノ落口ニほ

らかひ石・鐘石ト云有^レ之 此瀧本一町ハカリ下ニ護摩堂有 此背^{ウシロ}ニ往昔文覺上人
籠タリトテ則文覺瀧ト云リ 前所籠堂ハ是ヨリ向ニ當ル 瀧山^{ノボ}上リヲスレバ 如意
輪ノ瀧ヨリ登リ最勝力嶺ト云 世俗ニ此所ハ最勝王經ヲ納メシ所也トイヘリ 是ヨ
リ三ノ瀧ヘ道有^レ之 三ノ瀧ハ天児屋根命飛瀧権現也ト云リ 水ハ巽ニ向テ落ルナ
リ 此瀧ヨリ上ヲハ人カヨハストイフ 花山院ノ御菴室ノ跡有 石ノ櫃ニ御天目ニ
ツ・水瓶ニケ有之 同傍ニ枯木 ムカシ名木ノ高根ト云桜ノ所有^レ之也ト云ヘリ
此ワタリハ深山ニシテ老木茂リ有 菴室ヨリ東へ上リテ布引瀧有水少シ流ル 此道
ヲ横ニ行ハ山上ニ細道有^レ之 爰ニ小キ堂有 此堂ニ聖護院道興法親王ノ 手自彫
付玉エル不動ノ像有 此所ヨリハ那智ノ勝浦・濱ノ宮ノ海上並南海咸ミユル 尤モ
景スクレテ面白シ ニノ瀧ヨリ一ノ瀧ノ上へ出ル也 瀧ノ落口五十間計ナリ 剣ヶ
淵トイフ有 此アタリ一枚岩ナリ 一ノ瀧ヨリ二町ホト上リテ右手ニ大岩有 猿岩
ト云ナリ 瀧壽院ヨリ東方ニ光カ嶺鐘樓堂有 此背ヨリ妙法山へ道アリ 此辻ヨリ
二町程上リテ弓手ノ方順道也 那智山ノ麓下馬ヨリ妙法山マテハ一里半余 其道大
木茂リテ深山也 那智山ノ御社ハ巽ニ向ハセ給フ也
本宮旧記曰 仁徳天皇草ニ創那智宮云々 其龍集^{トシ}ハ不^レ知

本社 從二位結社 千手觀音

二宮 伊弉冉尊 阿弥陀

三宮 速玉男 藥師

四宮 聖宮 龍樹

五宮 中禪宮 地蔵

六宮 若一王子 十一面

七宮 児宮 如意輪

八宮 子守 正觀音

九宮一十萬普賢
文殊

米持金剛 毘沙門
飛行夜叉 不動
勸請十五社 釈迦

拜殿有^レ之 大黒堂有^レ之 弥勒堂有^レ之 統テ三山ノ末社其数二百十末社ト云

本宮・新宮・那智三山ノ社領都合千石也ト云リ 妙法山阿弥陀寺上生院ハ世俗ニ女人ノ高野山ト云リ 開基ハ弘法大師 本尊ハ即大師四十二歳ノ像形ヲ 自力ヲ彫刻シ給フ所ノ木佛也 同並ニ四方淨土ト云ヒナラハセルト有 此本尊ハ大唐ニテ弘法ノ師範惠果和尚ノ木像 是又弘法ノ作也 此門前ニ地ヨリモ六七尺モ高キ岩有 此穴隱水トテ名水アリ 四季共ニ増減ナシ 毎日潮ノ干満有トイヘリ 是ハ昔弘法ノふ^封う^置し^{かる}ヲカルト云 妙法山ヲ直ニ下レハ 平野山ト号シテ銅ノ出ル山ニ行也
抑^{ソモ}熊野三山ノ御事ハ 往昔代々ノ聖主特ニ尊敬ヲハシマシテ 御參籠モタビ^ク有シトカヤ 且其年譜ヲ管見シ奉ルニ

人皇十代崇神天皇 南紀神社録曰 相傳此時 始建ニ熊野本宮ニ云々 同十二代景行天皇 南紀神社録云 此時 始建ニ熊野新宮ニ云々

同十七代仁德天皇 本宮旧記曰 仁德天皇 草ニ創那智宮ニ云々 同四十二代文武天皇・同五十一代平城天皇・同五十六清和天皇・同五十九代宇多天皇・同六十五代花山院法皇・同七十

二代白河院法皇御製 ハナノケシキヲミルカニ

左^サ伎^キ尔^ニ保^ホ布^フ波^ハ那^ナ能^ネ氣^ケ志^シ記^キ乎^ヲ美^ミ婁^ル加^カ羅^ラ尼^ニ
軻^カ弥^ミ乃^ノ許^コ々^々慮^ロ曾^ソ贈^ラ羅^ニ仁^シ之^ヲ羅^ル留^ル々^々

同七十三代堀川院・同七十四代鳥羽院法皇・同七十七代後白河法皇 此帝ハ別

而御信仰モ深カリケルニヤ三十三度ノ御幸御願成就ヲハシマシケルトゾ・同八十二代後鳥羽院・同八十九代龜山院也 遙々ト南山ノ峻嶺ヲシノギオハシマシ雲ヲ分ケ川ヲ渡リ斯嶮難ノ幽谷ニ分入り給フ事 是皆天下安全ノ御奉幣 後生善所ノ御祈願有ノ故トソ聞ヘシ 仰ヘシく難レ有カリシ御事也

那智山ノ西口色川村ノ東ニ鳴瀧アリ

おもふ事身にあまるまでなる瀧の しばしよとむをなになげくらむ

此歌ハ身ノシヅメルコトヲナゲキテ アヅマノ方ヘマカリ下ラント思ヒケル人 熊野ノ山ニツウヤシテ侍リケル夢ニ見ヘケルトソ

◎天満村 高三百八十五石 棟数百六十軒有 村ノ入口ニ川有 十八間 土橋有 此辺銅ノ氣強ニ依テ此川ニ魚ナシト云リ 在所ノ中程ニ天満ノ社八幡宮有レ之 同側ニ王子ノ小社有レ之 濱宮ヨリ此所ニ往ニ直路ハ砂濱ヲ通ル也 那智山ニマウテ、此在所へ出ルニハ廻リ道也 天満村ニテ那智紙似ニ唐紙也 根本ハ徐福仙人漉キシメシト云リ

するだ坂五町 那智勝浦在家有 是ハ順道ヨリ東ニテ往還ス非ニ順道ニハ幡宮・恵比須宮有レ之 此浦ハ當國第一ニ勝レタル善湊也 室ノ湊ト号スルハ此所也ト云リ海中ニ不奥島・小金島・本太島・雀島有旧跡ト云リ 在所ノ中程一町ハカリ山上ニ横二十間長三十間ノ平地有レ之 往昔白河法皇ノ敕願松青寺ノ旧跡也ト云リ 退轉シテ今礎ハカリ残レリ

◎湯河村 高百六十二石余 家数十七軒有レ之 在所ノ中程ニ湯河寺禪宗也 有 本尊藥

師弘法ノ作也 爰ニ温泉有レ之 岩ノ狹間ヨリ湧出ル但ヌルシ 寒氣ノ時ハ在家ニ汲取テ水風呂ニシテ入湯スル也 中風・筋氣・手足ノシビレ・男女腰ヨリ下ノ疾ニ

○寅？濱？

ヨシ 殊ニ婦人ノ萬冷病ト勝テ善シ ヨク温ル故ニ頭痛・上氣ニハ不_レ宣ト云リ
順道ヨリ十町許南ニ當テ 夏山ト云ル旧跡有 此峠ニ弁才天ノ社有 道ノ傍ニ六字
名号石碑有_レ之 弘法大師ノ筆也 同演_○ノ方ニ仙阿弥上人ノ菴ノ跡有 時代不_レ知
也 同側ニ光明坊ノ窟有_レ之 此穴那智山ヘ徹タリト云 昔此穴ノ内ニ三本竹ト云テ
有_レ之ヨシ 今ハナシ 順道ニ少シツヘノ小坂有

◎川関村 在所ノ中程ニ王子ノ小社有_レ之

◎二河村 高三百三十石余家数三十三軒有 自_レ是市屋村ノ間ニ上下五町ノ坂・同五町
半ノ坂有_レ之

◎市屋村 馬次也 高百六十七石余 軒数廿七軒有 村ノ半_○外_○トニ王子ノ小社有 小
坂有 太田川幅一町力ヲ渡リ也 洪水ニハ渡ニクシ

○○「半_{ナカバシ}外_{トニ}」ト訓カ

◎和田村 馬次也 高二百六十四石余 棟数三十一軒 此所ニ大泰寺ト云ル山ニ
跡有 城主モ時代モ不_レ知 同側ニ王子ノ小社有

二川村・市屋村・和田村ヲ都テ太田ト云也

◎庄村 馬次也 高二百五十石余 棟数三十軒有 村ノ中程順道ヨリ少シ右手ニ弘
法手自堀玉ヒタリト云傳ル井有 當村用水ト云リ 同並ニ藪ノ辺ニ弘法作ノ薬師有
藪ノ下順道也 此在所ニ菖蒲ノ森ト云古城ノ跡有 城主ノ時代知人ナシ 小坂有上
下六町也

◎浦上浦 在家有_レ之 高九十二石余 棟数五十軒有_レ之 濱辺順道也 上下三町ツヘ
ノ小坂ニヶ所有 此海ニ離小島・玉浦ト云ル名所アリ 但粉白浦ノ内也云々

万葉 十五

無 名

玉の浦 沖つ白玉ひらへれと ましたもおきつる見る人もなみ

爲 家

玉の浦の何にたつものは秋の夜 月にみかける光なりけ里

◎大床浦 鍋島ト云旧跡有 同辺二岩井ノ松ト云名木有 此所ニテ漁舟多シ 王子ノ小社有^レ之 少ツ、坂有^レ之

◎下田原浦 馬次也 高四百七十四石余 棟数五十三軒有 此所ニハ四季共ニ石^ア決^ワ明^ビ多シ 故ニ海人多シ 王子ノ小社有^レ之 浦神ヨリ此マテ濱辺順道也

◎古座村 馬次也 高八石 棟数百五十九軒有 村ノ入口ニ墓所有^レ之 此ノ上方ニ小山式部力城跡有 此所ニ漁舟多シ 南ノ方ノ山奥ニ温泉[○]有^レ之 是ハ近キ比ヨリ出来タリ 其上順道ニアラザル故ニ是ヲ知人ナシ 何ノ疾ニ善ト云事ヲシラス 在

○小山ノ城ハ西向浦ナリ混入ス ○温泉ハオノ谷ナラン

所ノ半程 札ノ辻ヨリ神川浦ヘ舩渡シ有 但入川湊也 此川大ナル鰻多シ 他国ニ類ナシト云 在所ノ内ニ古城ノ跡有 ムカシ高川原帶刀ノ居城ナリト云リ 此順道ノ側ニ屋敷力マヘ有 是ハ和歌山ヨリ不断百日代ニテ 口熊野御目附一人ツ、爰ニ来勤番スル所也 同辺ニ郡奉行御代官ノ屋敷有^レ之 是ノ前交代勤有^レ之由 同並王子ノ小社有 古座川ハ、式町有 舟渡常ニ有^レ之 旅人ハ舩賃定ラス 近里ノ者ハ秋米ヲ出シテ價^レ之 此舩中ヨリ橋杭浦ノ在家ミユル 海端ニ其高サ二丈四五尺ハカリツ、有^レ之 橋杭ニ似タル大岩十七八相並ヘリ 昔弘法大師橋杭浦ヨリ向ノ大島浦ヘ一夜ニ橋ヲ掛ケタリト 其橋杭今ニ残り故ニ村ノ名トスルト 土俗ノ説ナリ

◎西向浦 高百四十一石余 棟数七十軒内四十一軒里方 廿九軒ハ浦方也

◎伊串浦 高七十一石余 棟数廿六軒有^レ之

◎姫浦 高七十九石余 棟数十軒有^レ之 村外ニ姫ノ松原有 此中ニ王子ノ小禿有濱辺ニ黒キ碁石多シ 小坂少々有 シリデノ坂上リ三十間・下リ三十間

◎鬪川村 馬次也 高三百七十二石余 棟数五十二軒

◎二色浦 高百十石余 棟数廿軒 小坂有 ハバ十二間ノ小川有

◎二部浦 高二百十四石余 棟数廿七軒有^レ之 上下四町ノ坂有 又上下二町余^{三町トモ云}

ノ坂有 此山ニ後子抛ト云難所有

◎有田浦 馬次也 高三百四十九石餘 棟数七十九軒 坂二ヶ所 一ツハ上下三町

一ツハ上下六町 小川アリ

◎田並浦 高五百七十六石余 棟数百三十一軒内三十四軒八里方 九十七軒ハ浦方也

上下一町ノ小坂有

◎江多浦 高百五十七石余 棟数三十一軒有 此浦ニ漁舟多シ 村ノ半程ニ王子ノ小

社・夷ノ社有

『此向ノ海中ニ須江浦・檜野浦トテ西浦共々在家在 此所ヨリ出雲浦マデノ内ヲ塩ノ崎浦ト云ル名所ナリトソ 又塩ノ御崎共云也 此所ハ潮極テ早シ 上リ汐下汐トテ或八年ヲ經テ上リ塩ハカリノ事モアリ 或ハ下リ汐ハカリノ事モ有 世間ノ汐ノ干満ニカヘハラス 片塩ハカリニ行也 其程ハカリ難シ 奇異ノ事也 故ニ往来ノ廻船乃ニ難儀ト云リ

山家集

西行

小鯛ひくあみのうけ^{縄?}なはよりめぐり うきしわざあるしほさきの浦

此浦ニ御崎ノ観音有』

●此向ノ海中云々ヨリ観音堂アリマデハ關ノ川村ノ処ノ事也 故ニ上ニ轉シテアルベシ 混入セシモノト見ユ

江田浦ノ順道ニ上下十町同二町三町ノ坂有^レ之

◎田子浦 高百三十三石^{浦方里方} 家数五十七軒 内廿七軒里方三十軒浦方也^{二色ヨリ此浦マデ濱辺順道}

ナ 自^レ是和深マデノ内ニ片坂八ヶ所 上下合十町有^レ之ト云也

◎和深浦 馬次也 高四百四十八石余 浦方 家數百三十六軒有之 入海有 此間二片

坂九ヶ所 其道法合七町半有ト云 此左手海辺ノ谷嶮岨ニシテ大キナル岩崎タリ

右手ニモ峻岩有之峯ナリ 尤道狭シ 此外二坂少々有之 鬪川村ヨリ和深浦ノ間

二統テ小坂四十八ヶ所有ト云傳フ 但大山ハ此外也

里野浦

◎里浦 高百一石 棟數六十五軒有 此所ニハ四季共ニ柴薪伐木等多シ 近辺ノ山ヨ

リ伐出テ船ニテ諸方ヘ商賣ス 自是江住ノ間二片坂六ヶ所 合テ上下六所有ト云

◎江住浦 高百十四石余 棟數六十六軒有 是ヨリ見老津マテノ内二片坂八ヶ所上下

合テ五町有之

○原本未老津浦トアリ

○長柄坂（芝口）

◎見老津浦 高二十五石余 家數六十八軒 長井坂四十八町 此間ニモケハシキ所ハ

上下十二町下六町有ト云

◎和深川村 馬次也 高九十四石 家數四十九軒有 村ノ入口ニ小キ川有 和深山上

下二町 俗ニかさ折山トモ高山トモイヘリ

身のうさを思ふ涙ハ和深やま なげきにかゝる時雨なりけり

◎口和深村 馬倒坂 上下九町

●ウマコロビ 馬 轉坂ナリ △周參見浦

◎周參美浦 馬次也 高九百十七石余 浦方 家數六十一軒村ノ中ニ城跡有 往昔周參美

主馬助ガ居城也ト云リ 村ノ中ニ川有 是ヲ當麻江ト云 此浦尤諸廻船ノ湊也 此

所ニ御城米改南三十郎ト云者五人扶持被レ下常ニ住スル也 川三所有 佛坂ヨリコ

ナタノ小川ハゞ十二間有 佛坂ケハシキ所十四町 坂ノ上下三十町 かつら松ノ坂

十五六町有 此坂ハすさみトあごトノ堺也 右坂ヲ除ニハ周參見ヨリ 日置浦ヘ舩ニノリテヨシ

◎安居村 馬次也 高二百七十三石余 家數四十八軒有 村ノ入口ニ川ニツ有之

是ハ中辺路越ノ近露川ノ下也 村ハツレニ水ナキ川三四ヶ所通ル也 是順道ナリ

少シ行テ安居坂上下三町半也 富田坂一里六町有^レ之

◎富田高瀬村 棟数五十軒有 馬次也 此郷ノ内ニ統テ十四ヶ村有ト也 其税三千五

百十九石^{浦方} 棟数四百廿軒内二百七十軒八里方 百五十軒八浦方也 在所ノ外ニ富

田川有^{ハベ}一町瀬多シト 洪水ニハ越ニクシ 此川下ハ富田ノ内袋ノ湊ニ落ル也

此辺ヨリ萱中砥ト云テ荒砥出ル也 神子濱砥ニ同シ 運上ヲ出シテ諸國ニ商賣ス
名物也

高瀬村ヨリ六町異ニ當テ 要害ノ古城ト云フテ山城ノ跡有 城主不^レ知 高瀬ヨリ

半里ハカリ西ニ堅田村有 此所ニモ要害山ト云テ古城ノ跡有^レ之 是ハ山本主膳力
家来堅田式部ト云者當在所ヲ知行シ 百廿余年以前永禄年中マテ居城セシ地也ト云

○ ○ 原本家頼トアリ ● 家来

芝村 家数六十軒有^レ之 伊勢谷村是ハ十九洲ノ内也 平村・内野川村・保呂村

是ヨリ異ニ當テ鴻巣ト云山城ノ跡有 是ハムカシ山本主膳力家頼内野川平兵衛ト云

者 内野川・保呂村両村ヲ知行シテ百五十年前マテ居城セシト也

◎朝来村 馬次也 統テ七ヶ村也 其税五千六百石 棟数五百廿軒内二百七十六軒本

役家也 村ノ中ニ王子ノ小社有^レ之 當所ヨリ半町ハカリ隔テ岩田村有 同^{岩田川}川有

續拾遺 神祇

花山院

岩田川わたる心のふかけれぞ 神もあはれとおもはざらめや

同岩田村ヨリ四町程南ニ當テ山城ノ跡見ユ 是ハ山本力家臣山本兵部ト云者百五年

以前マテ居城セシト也 兵部力知行ハ岩田村並市野瀬村ノ内・岡村ノ内ヲ領セシト

也 又岩田ヨリ十町餘川上ニ市野瀬村アリ 市野瀬ヨリ五町程川向ニ 北ニ當テ龍

松山トテ古城ノ跡有 是山本主膳天正十三年ノ比マデ居城セシト云 知行所ハ朝来

郷七ヶ村・富田ノ郷十四ヶ村並三番・四番ノ内 田辺組ノ内湊村神子濱・万呂村・

△荊木村 日高郡ノ内ニテ塩屋村・いはき村・萩原村等也 主膳事ハ天正十三年三月 秀吉公

ナラン 當國御進發ノ時敵對仕ニ依テ御魁 杉若越後守ト相戰勝負區々成リシカトモ 山本

(芝口) 方ニハ味方スル者ナク 剩舅湯川モ没落セシカハ 始終不レ協ト思ヒ潜ニ城ヲ出テ

熊野ノ方ヘ落行所ニ寄手亦追蒐ル 終ニのそきの橋ヲ引テ防戦スモ 後藤堂高虎武

略ヲ以テ山本ヲ降参サセ 翌天正十四年那賀郡粉河ノ館ヘ獄牢 浴室ニ於テ殺害セ

シト云ヘリ 事長力故ニ零レ之 此村ノ西ノ方ニ大芝ト云古戦場有レ之 今ハ田地

ト成也山本主膳ヲ追討トシテ 仙石權兵衛後号ニ越前守・尾藤甚右衛門・杉若越後守等於

ニ此處ニ合戦セント謂傳ヘタリ

又朝来村ニ相對テ岩崎村有 是ヨリ十町坤ニ當テ山城ノ跡有 城主不レ知也

新庄峠小坂也 新庄村坂ノ下着ニ小社有 同村中ニモ小社有 橋ヶ谷小橋有 ツブ

リ山小坂也

權現松原此中ニ二十二社權現ヲハシマス 是ハ鷄合權現ト云 于レ世新熊野ト申是

也 役行者大黒像モ有レ之 本社ハ北向也 平家調伏ノ宮ト云ナラハセリ 昔源平

ノ合戦ノ時 当社ノ別當湛増法師赤白ノ鷄ヲ合戦 勝タル方ニ闘セント祈誓セシ

●者↓ハニ 白鷄戰勝故ニ源氏ニ味方シ 其功アリトカヤ 此宮者田辺中ノ産宮也 祭礼ハ

例年六月廿四日廿五日兩日也 兩日共ニ猿樂能ヲ九番ツヘ奉ス 廿四日巳刻潮垢離

ノ濱ノ出御有レ之 其後田辺中ヲ渡シ奉ル 晚景ニ及ヒ又潮垢離濱ノ御旅ニ還御也

然ニ寛永十九年笠鉾ニ替ル 今ハ町中渡シ事モヤミ 又慶長十年ニ淺野左衛門佐氏

定 始而米五石ヲ御供領ニ寄附ス 今ニ退轉セス 此社ノ南方ノ山ヲ仮庵山ト云

湊村ノ内也 右松原ノ濱辺ニ至テ夙村ト云有 此在所ヨリ一町ハカリ沖坤ニ當テ

旗島ト云有 是ハ往昔熊野權現旗ヲ立給フ所也ト云リ 同村ヨリ海上十五町程ニ當

テ神樂島有 其廻一町許有^レ之 但此島江川浦内也 同村十八町程沖未ノ方ニ鐘鑄[○]ノ島有^レ之 其廻リニ町ハカリ也 同海濱ニ神子濱村ト云有^レ之 此所ヨリ荒砥出ル 神子濱砥ト云テ世々重宝セリ 磯間濱アリ 此在所ヨリハ二町程未ノ方ニ當ル也 最神子ノ濱ノ内也

新拾遺 恋二

定家

梓弓いそまの浦にひくあみの ○めにかけなからあはぬ君かな
同沖ニ[○]多[○]ひ島有 海上五町程隔也

神島ハ新庄村 于^レ前記^レ之ノ内也 島ノ廻九町此内ニ鹿島大明神ノ社有^レ之 鳥ノ巢枝浦ヨリ戌ノ方ニ有 船路四五町也

建保百首

順徳院

鹿島やいそまの浦にあまのかるもに 住虫の身をうらみつゝ、
又形見浦ト云所モ此在所ノ内也 但跡ノ浦ト云枝郷ノ江^{イリエ}也 古歌アルヨシナシ共
不^レ覺ト土人ハ云リ 私云 古歌ニ形見浦トヨミシハ海部郡加太村ノ海濱也トカヤ 加太村ニテ問ニ又勒島ト云リ

新敕撰 冬

鎌倉右大臣

風寒み夜のふけゆく妹力島 かたみの浦に千鳥なくなり
トヨミツヘケタレハ當所ノ名所トイフ事不審シ 所詮此浦ハ同名ニシテ名所ニハアルベカラス 猶可^レ尋 同沖ニ鳥島有 長一町横廿間ハカリニ見ヘタリ 舟路六町モアランカ 同鳥巢浦モ家数少ハカリ有 尤^{山方}浦方 新庄ニ組スト云ヘリ

又前ニ記ス周参美浦ヨリ海濱ヲ通テ富田ノ高瀬村へ出ルニ すさみヨリ日置村 此所ニテ

ハ冬ノウチ青苔多ク出ル也 (志原) 志ハラ・かさんホ・市江 此間三十町程何レモ在家有レ之 朝来帰浦 是ヨリ男女取レ之商賣トスル也

●隔(芝) 五六町阻テ出崎ニ常燈有 是ハ遠候ノ常番所也 田辺ヨリ勤レ之 朝来帰ノ内ニ小

椿ト云所ニ狼煙有 大椿・いさひ谷・箕輪・横浦 是ハ市江浦トテ朝来帰トノ堺也

◎見草浦 棟数十七軒有レ之 見草ノ湊ハ濱ヨリ二町程ノ入江也 深サ七尋ホト也

是ヨリ長崎ト云所マテ見草ノ内也 見草ヨリ袋ノ湊マデ海上廿七町・陸路十九町有

◎袋 湊 家数六軒有レ之 此湊ノ口深サ五尋ホト 指渡一町ホト有レ之 湊ノ内長六

町計横百間程船繋ノ深サ二尋或ハ三尋 沖ヨリ二町ホト入テ右手ノ方半遠浅也 湊

口己午ニ向テ奥ハ亥子ニ當レリ 此所ニ當所有レ之 湊口一町半程沖弓手二三ツ石ト

云岩有レ之 満汐ニハ見ヘス 此岩ヨリ磯ヘ二町ホト有レ之 袋ノ口ヨリ二町ホト西

二大島ト云アリ 長七十間程横五十間程ナリ 右袋浦ヨリ富田ノ高瀬村ヘ出ル也

又高瀬村ヨリ瀬戸ノ鉛山村ヘ二里半程有 高瀬村ヨリ吉田村・小山村 溝端村ノ内也・才野

村・悪川 才野村ノ内也 鴨居谷家数六七軒 此間ニ平岩ト云有レ之 是ハ富田ト瀬戸トノ堺

目岩也

◎鉛山村 此所ニモ温泉四坪アリ 此内まぶの湯ト云ハ在所ヨリ東ニ在 筋氣・脚氣

・冷病ニ善ト云 屋形ノ湯ト云ハ小瘡ヲ治事奇妙也 此山上ニ薬師堂有レ之 作不

明 開帳鳥目八文也 薬師守ハ三太夫ト云土人也 元ノ湯ハ下疳・諸瘡毒ニ良 往

昔親鸞上人此湯ニ入ラレシト云傳タリ 然ハ門徒ノ湯ト云ヘキカ 寄ノ湯ト云ハ万

病ニ良トヤ 第一ニ手負・打身・打傷ニ入湯スレバ忽ニ平癒スト云也 此湯壺ハ自

然石ニシテ薬師ノ形也ト云 其長サ三間余 湯口ハ御頭ノ形ナリ 此湯ニハ前君モ

度々浴アリハサレシ也 右四坪ナカラ上屋有レ之 尤濱辺ナル故ニ在所ヨリ行ニ足

場悪シ

鉛山村ト瀬戸村トノ間ニ小坂少々アリ 坂ノ下口ヨリ瀬戸浦・是ヲ白良濱ト云 此濱ノ砂極テ白シ 外ヘ持行ハ色変ストイヒ傳タリ

山家集

西行

浪よする白良の濱のからす貝 ひろひやすくもおもほゆるかな
此村烏貝ノ名所也ト云

家集

兼盛

君か代のかすともとらむ紀の國の 白良のはまにつめるまさこそ
又此浦ヲ走湯濱トモ云リ 浪打際ヲ堀スレハ其儘温泉湧出ト也

堀川百首

仲実

ましらの濱のはしり湯浦さひて いまは御幸のかけもうつらす
又此所白貝ノ名所ニシテ有ニヤ 源順ノ和名抄ニハ白貝ト書テおふかひと訓セリ

齋宮歌合

讀人不知

月影の白良の濱の白貝は 浪もひとつに見へ渡るかな

然レハ此歌モヲフガヒトヨムヘキニヤ 知人ニ可レ尋 在所ノ中ニ小キ小川有 橋カヘレリ

◎

瀬戸浦 在家アリ 前ハ砂濱也 瀬戸ノ出埼ニ常番所有 田邊ヨリ與力一人ツヘ三
十日代ニシテ勤番不_レ怠 番所ノ東南ニ権現崎小社有

瀬戸浦山ニとくろの宮ト云フ社有 華表ヨリ内ニシテ木葉一ツニテモ取又レバ 忽
ニ煩ト云 此宮ヲ俗誤テ藤九郎ノ宮ト云ヘリ 昔頼朝卿ノ長臣盛長此所ニ流罪セラ
レ卒ス 則神ニ祀シトカヤ 謬説也 瀬戸ノ在家ヨリ西ニ先君ノ御殿有シ 今ハ廢
セラルヘ也 此間ニむすめ谷ト云所有_レ之 海辺也 波打際ニ色々ウツクシキ小石
多シ 拾ヒテ盆山ニ敷ト云リ

此浦ニテハ春秋鰯_{ボラ}ヲ捕 塩ニ漬テ賣買ス故ニからすみ多シ 又鉛山ノ上ニモ先君ノ

御殿有シ 今ハ其跡ハカリ残レル也 統テ此辺ノ山ニ桔梗多シ 此山ハ右ノ薬師山
ニ續ケリ 鉛山村・瀬戸浦ノ海中ニハ桜苔・あまのり・つるも・一葉和布多シ 小○

鮑等又多シ

○コアハビ 鮑↓とこぶしヲ云地方俗ニながれコト云フ也

瀬戸浦ヨリ田辺マデノ海上二里ハカリ 陸路ハ五里 瀬戸浦ヨリ北ノ浦續東ヘツタ
ヒ田志リ・綱不知ナト在家有 風莫濱俗ツナシラズト云名所也ト 此海底ニ立貝ト
云物多シ 糸ぼし貝トモ云ト也 其形□ニ似タリ ●魚片ニ夜? (章博)

万葉集 九

長忌寸意吉麿

かさなきの濱のしらなみいたつらに こへによりくるみる人なきに

瀬戸浦ヨリ田辺ヘ行ニハ才野村ニ出テ 夫ヨリ小山村・高井村・血深村・平村・野
田村・岩崎村・朝来村・新庄村・田辺也
右所々浦方・山方・里方・山海共々諸色二分口也 イツレモ金銀ニシテ上納ス 但
鯨ハカリハ十分ノ一運上也 田辺・新宮共々同レ之也

和歌山ヨリ熊野道積

和歌山ヨリ一里半

内原ヨリ二里

橋本ヨリ一里廿八町

○橘本

宮原ヨリ一里廿町

湯淺ヨリ三十二町

井関ヨリ二里一町

原谷ヨリ一里廿三町

小松○ヨリ三里 ●原 (芝口)

印南ヨリ三里

南部ヨリ二里

田辺ヨリ一里卅二町

三栖ヨリ二里半

芝ヨリ廿二町

高原ヨリ二里十一町

近露ヨリ廿九町

野中ヨリ四里

伏拜ヨリ一里

本宮ヨリ廿五町

熊野獨參記

卷第三

終（大尾）

湯峰
本宮ヨリ下舟八里
宇久井ヨリ一里
那智山
濱ノ宮ヨリ十一町
勝浦ヨリ二里半
田原ヨリ一里
姫ヨリ一里半
二部ヨリ
●田辨ヨリ半里
・（並）
田子ヨリ半里
里浦ヨリ一里
見老津ヨリ一里半
周参見ヨリ三里
高瀬ヨリ二里
田邊

新宮ヨリ一里半
濱ノ宮ヨリ五十町
天満ヨリ十一町
浦神ヨリ一里半
古座ヨリ一里
鬪川ヨリ
有田浦ヨリ半里
江多ヨリ半里
○江多ヨリ半里
アタシ一里
○安指？
江住ヨリ一里
口和深川一里半
安居ヨリ二里
朝来ヨリ一里半

本書ハ和歌山縣圖書館蔵ノ寫本ヲ複写シタル也

原本ハ誤字少カラス 思フニ初行草体・平仮名交リノ本ヲ寫シテ 楷字片仮名ニ改メタルモ 筆者其文意ヲ解セス 文字モ亦讀ミ難キモアリテ 誤字ノ多キヲ致シタルナラム

本書筆写ノ際誤字ノ明ナルモノハ 訂正シ・不明ナル所ハ圈点ヲ施シ・脱字ノ疑アルモノハ字間ニ圈点ヲ附シ置キタリ 末尾里程ノ處二三書振ヲ改メタリ 見易力ラシ力爲ナリ

昭和七年九月十二日夜

中 根 七 郎

原著ハ元禄二年ノ筆ト見ユ 和歌山辺ノ僧侶ニ非スヤト想像ス 其故ハ若山辺ノコト精シササ^{ボサツ}ノ字ヲ用ヒタル杯也

昭和十四年十二月前記中根氏ノ寫本ヲ借りテ寫セリ 多少誤字ヤ和歌ノ間違ヲ改メオキタリ 宇 井 龍 水

(欄外ノ記入ハ中根氏ノ書入モアレバ余ノ書入セルモアリ)

昭和十五年三月 宇井氏ヨリ借りテ寫ス 誤字 ト雖モ讀ミ得ル処ハ敢テ改メズ 誤リ箇所等余ノ記入セルモノニハ(芝口)ト記シオキタリ

中根氏ハ之ヲ僧侶ノ著ト考フルモ
左ニアラザルベシト思ハル

芝 口 常 楠

昭和二十五年八月十四日 芝口常楠氏ヨリ借りテ寫ス 此ノ筆寫ハ七月半ニ始メ八月半ニ及ブ 清 水 長 一 郎

『熊野獨参記』のワープロ化を完了して

今日やっと『熊野獨参記』の活字化を終了した。これからプリントし校正に入る。第一巻の後書きに述べた通り、この本は最初は『熊野獨参記』と云う書名で、作者不明と思っていたが、『紀南郷導記』の写本で何時の頃からか『熊野獨参記』と書名が変わったらしい。

前記四人の先輩は『紀南郷導記』の存在を知っていたのか否か定かでない。

昭和四十二年紀南文化財研究会刊行『校訂紀南郷導記』のあとがきに、著者児玉莊左衛門のこと等詳しく記されている。

この本の活字化を終了したことにより、『いほぬし』（九五〇年頃）・『中右記』（一〇九年）・『熊野御幸記』（一二〇一年）・『北野殿熊野参詣日記』（一四二七年）・『熊野巡覧記』（一七九四年）・『熊野詣紀行』（一七八八年）等平安中期から室町・元禄・江戸後期の熊野詣での紀行文の整理が出来た。父の熊野紀行の写本で未活字化は、寛政十（一七八九）年川井立齊の『熊野紀行』が残っている。しかし此本は『熊野詣紀行』の著者林信章と同行した時の紀行文である。

平成十七（二〇〇五）年六月二十一日

清水章博